

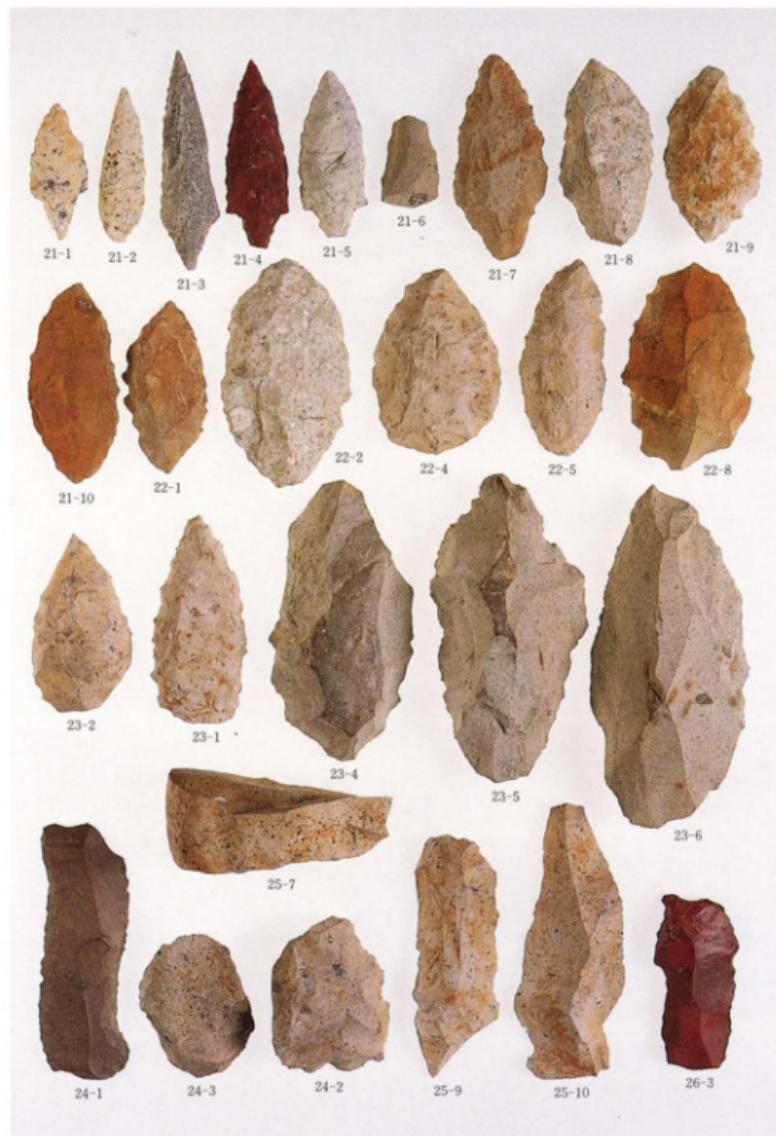
富山県小矢部市

# 白谷岡ノ城北遺跡発掘調査概要

—白谷地区土地改良総合整備事業に伴う発掘調査—

1992

小矢部市教育委員会



白谷岡ノ城北遺跡 繩文草創期ユニット出土の石器

富山県小矢部市

# 白谷岡ノ城北遺跡発掘調査概要

—白谷地区土地改良総合整備事業に伴う発掘調査—

1992

小矢部市教育委員会

## 例　　言

- 1、本書は、平成3年度小矢都市白谷地区土地総合整備事業（区画整理型）に先立ち実施した白谷岡ノ城北遺跡発掘調査の概要報告である。
  - 2、発掘調査期間は、平成3年6月14日から10月31日まで、発掘面積は約6,600m<sup>2</sup>である。
  - 3、調査は、調査事務局を小矢都市教育委員会におき、調査費用のうち発掘調査の地元農家負担分については国庫補助金並びに県費補助金の交付を受けて小矢都市教育委員会が実施した。
  - 4、調査は山森伸正（小矢都市教育委員会社会教育課文化財係主事）が担当した。
  - 5、調査にあたり、邑本順亮（富山県埋蔵文化財センター所長）、宇野隆夫（富山大学人文学部助教授）、西井龍儀（小矢都市文化財保護審査委員）各氏はかかる協力を得た。記して謝意を表したい。
  - 6、縄文草創期の石器の実測・トレイス図の作成及び本文中の縄文草創期ユニット及び遺物については西井龍儀氏はかかる協力を得た。
- また、縄文草創期石器の石材鑑定については邑本順亮氏にご教示を得、縄文早期押型紋土器については狩野睦氏（富山県埋蔵文化財センター主任）のご教示を得た。
- なお、縄文草創期ユニット内から検出したかの焼土については、考古地磁気年代測定のためのサンプリングを富山大学理学部地球科学研究所にお願いし実施した。
- 7、本書の作成・資料整理は主に山森が行ったが下記の方々から協力を得た。赤野和恵 高山恵子 早助よし子 森谷奈利子 蟹谷百合子 中田百合子 藤村裕子 西田芳江 吉田近子
  - 8、出土遺物および図面・写真は小矢都市教育委員会が一括して保管している。

## 目　　次

I 位置と環境	1
第1図 周辺の遺跡(1/25,000).....	2
第2図 縄文区位置(1/2,000) .....	3
II 調査経過	4
日誌抄.....	4
III 調査の概要	6
1. 地形.....	6
C地区.....	7
第3図 C地区全体平面・断面(1/500).....	7
(1)縄文草創期.....	9
第4図 縄文草創期ユニット調査区平面・断面(1/200).....	10
第5図 縄文草創期ユニット平面分布とか(1/20).....	11
第6図 ユニットの地層と垂直分布(1/20).....	13

(2)縄文時代・平安時代	15
(3)中世	15
第7図 縄文早期押型紋土器出土状況(1/20), 風洞木質(1/80), 縄文中期土器出土状況(SK-6)	
(1/30)平面・断面	17
第8図 集石遺構(SS-1~3)平面・断面(1/20)	18
第9図 建物(SB 1~8, 11)平面・断面(1/160)	19
第10図 建物(SB-12), 穴状遺構(SI-1~3)平面(1/80)	20
第11図 建物(SB-12)(1/80), 穴状遺構(SI-1~3)(1/40)断面	21
第12図 井戸(SE-1), 土塁(SK-3, 7, 8)平面・断面(1/40)	22
第13図 井戸(SE-2), 土塁(SK-2, 67, 79, 103)平面・断面(1/60)	23
第14図 土塁(SK-4, 5), 五輪塔出土状況平面・断面(1/30)	24
第15図 土塁(SK-53, 80, 82, 83, 85, 100, 101)平面・断面(1/80)	25
第16図 土塁(SK 12, 36, 43, 45, 51, 76), 穴(P-26), 池状遺構(SX-2)平面・断面(1/80)	26
第17図 溝(SD-1~3)(1/40), 基本地層(1/60)断面	27
A・B地区	28
表1 建物(A・C地区)一覧・A地区遺構一覧	28
第18図 A地区全体平面(1/300)	29
第19図 A地区基本地層断面(1/80), 建物(SB-9, 10)(1/160), 穴(AP-1)(1/80), 方形区画溝(SD-12)(1/160), 井戸(SE-3)(1/80), 土塁(SK 108)(1/80)平面・断面	30
第20図 B地区全体平面(1/150)・断面(1/60)	31
表2 遺構一覧(C地区)	32
2. 遺物	34
(1)縄文草創期	34
表3 縄文草創期ユニット出土遺物数量	36
第21図 縄文草創期の石器 1 (2/3) 有舌尖頭器・槍先形尖頭器	37
第22図 縄文草創期の石器 2 (2/3) 槍先形尖頭器・尖頭器未成品	38
第23図 縄文草創期の石器 3 (2/3) 槍先形尖頭器・尖頭器未成品	39
第24図 縄文草創期の石器 4 (2/3) 刮器・使用刮片・石刃	40
第25図 縄文草創期の石器 5 (2/3) 刺片・尖頭器調整刺片・打面再生刺片・石斧・石刀とその接合例	41
第26図 縄文草創期の石器 6 (2/3) 叫き石・錘錠器	42
(2)縄文時代・平安時代・中世	43
表4 遺物一覧	43
第27図 遺構内出土遺物 1 (1/4) C地区(P-SI・SE・SS・SX)	46
第28図 遺構内出土遺物 2 (1/4) C地区(SD)	47
第29図 遺構内出土遺物 3 (1/4) C地区(SD・SK)	48
第30図 遺構内出土遺物 4 (1/4) C地区(SK)	49
第31図 遺構内出土遺物 5 (1/4) C地区(SK)・A地区(P・SD)	50
第32図 遺構内出土遺物 6 (1/4) C地区(SK)・包含層出土遺物(1/4) C地区・B地区	51
第33図 包含層出土遺物(1/4)	52

## I 位置と環境（第1図・2図）

白谷岡ノ城北遺跡は小矢部市域の南西部、福光町と隣接する小矢部市白谷字岡ノ城地内に所在する。渋江川の上流、標高約70～76mの左岸段丘上に立地する。遺跡はA～Dの4地域に分かれるが、今回調査の対象としたのはA・B地区の一部とC地区のほぼ全域にあたる（第1・2図）。

周辺の表層地質は新第三紀に形成された砂層に粘土あるいはローム・砂礫層が複雑に入り組んだ開析谷と段丘からなる。本流の渋江川及び遺跡の西側境を流れる支流の猪谷川によって頻繁に侵食・氾濫・堆積が繰り返されたためのものであろう。このことは調査の深く掘り下げた箇所および周囲の崖状地形の断面から観察できる。「白谷」の名称の由来は山地を割って流れる渋江川の両岸がこのあたりで急に狭

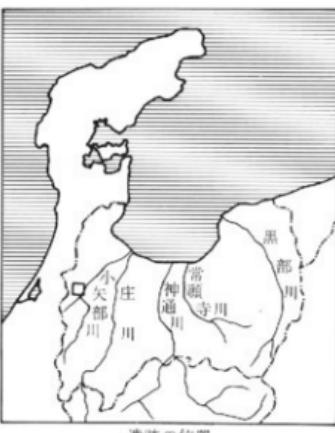
まり白状に落ち込む低位段丘の形状がみられることから名付けられたものと言われている（文献1）。

周辺の遺跡では、白谷岡ノ城北遺跡の南方約500mに福光町人母シモヤマ遺跡がある。旧石器・縄文時代の遺跡であるが、県下で最初に早期押型紋土器の発見されたことで有名である。

また、白谷岡村遺跡は古くより縄文土器の多くみつかることで地元及び県内の研究者に広く知られた遺跡である（文献2・3）。縄文中期を主体に前期～後期にわたっており、この周辺の中核的集落であったことが窺われる。昨年の試掘調査では住居跡と多くの縄文土器が出土した。

弥生・古墳時代は、この近辺では見るべき遺跡がなく、そのことがかえってこのあたりを特徴づけるものとなっている。即ち、稻作開始以降、谷水田及び丘陵地の再開発がおこなわれる律令時代後半では過疎化していたと考えられるのである。

律令時代後半になると、小白山山麓遺跡・白谷岡ノ城北遺跡・白谷岡村遺跡・白谷八幡宮遺跡・川開新遺跡などの遺跡が知られる。小白山山麓遺跡は地元の古老から古寺のあったところと伝承される。昨年の試掘調査で奈良～平安時代の須恵器・土師器を含む良好な包含層を確認した。中世以後は前述の各遺跡内でそれぞれに発展をみせ、なかでも白谷岡ノ城北遺跡と小白山山麓遺跡は比較的規模の大きな集落を形成したものとみられる。なお、字名「岡ノ城」の名称の由来は城跡のあったことからと伝えられる。

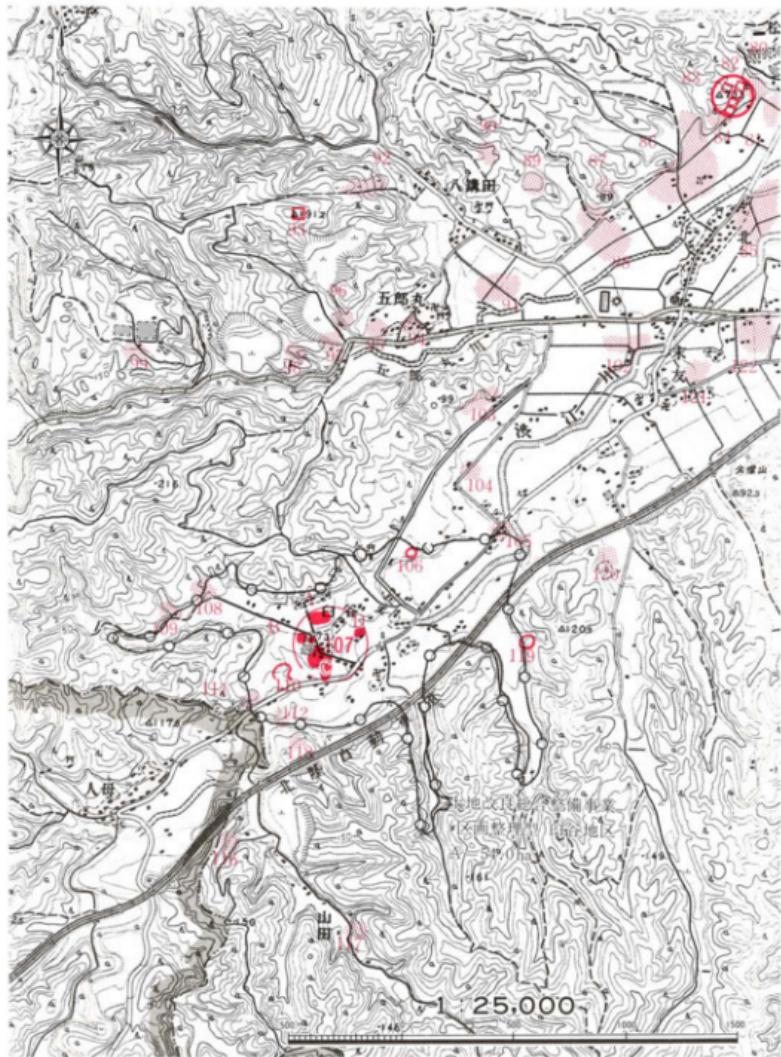


遺跡の位置

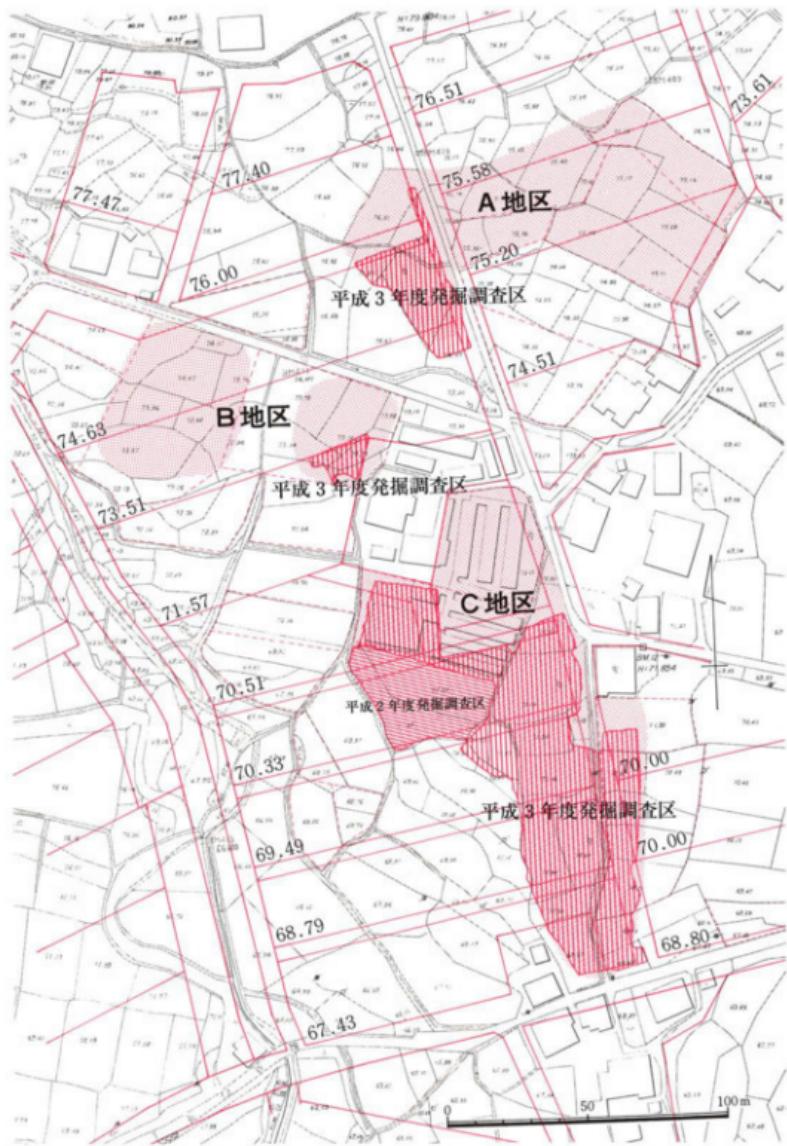
文献1 ふるさとのこころX「おやべの地名と由来」（その2）昭和58 小矢部市教育委員会

文献2 富山県史「考古編」昭和47 富山県

文献3「小矢部市埋蔵文化財分布調査概報」II・III 1981・1982 小矢部市埋蔵文化財分布調査団



第1図 周辺の道路(1/25,000) (80.松尾議所遺跡 81.北一北遺跡 82.北一IV遺跡 83.北一墳墓群 84.北一III遺跡 85.梶田遺跡 86.北一V遺跡 87.小谷山遺跡 88.北一VI遺跡 89.北一II遺跡 90.北一I遺跡 99.五郎丸IV遺跡 102.向島遺跡 103.川開新遺跡 104.白谷竹屋橋II遺跡 105.白谷竹屋橋I遺跡 106.白谷八幡宮遺跡 107.白谷岡ノ城北遺跡 108.白谷西I遺跡 109.白谷西II遺跡 110.白谷岡村遺跡 111.白谷樹分I遺跡 112.白谷樹分II遺跡 116.白谷念仏湯遺跡 117.白谷山田遺跡 118.白谷岡ノ城遺跡 119.小白山山麓遺跡 120.末友南遺跡 121.末友遺跡 122.興寺安養坊跡)



第2図 調査区位置(1/2,000)

## II 調査の経過

白谷岡ノ城北遺跡は1981年度の小矢部市埋蔵文化財分布調査団によって発見されたもの(現在の遺跡A地区付近一帯)を、平成元年度、圃場整備事業の実施に先立ち再踏査し、さらに平成2年度の試掘調査の結果A～D地区の4箇所と確定したものである。

昭和63年の11月下旬、はじめて白谷地区の圃場整備事業の実施について教育委員会あてに照会があり、遺跡との調整の交渉がもなれた。事業は、平成元年度に着工し、平成5年頃までに完成の予定で、工事名は「白谷地区土地改良総合整備事業(区画整理型)」。事業面積は54haである。

翌、平成元年の3月、工事対象地域内の遺跡範囲の再確認のため踏査を実施した。白谷岡ノ城北遺跡の範囲が拡張し、また、白谷八幡宮南遺跡を新に確認した。同年5月にはその調査結果をもとに協議し、6月と10月には白谷岡ノ城北遺跡(A地区:約18,500m<sup>2</sup>)と竹尾橋I遺跡(約1,800m<sup>2</sup>)の試掘調査を実施した。

平成2年6月には、白谷岡ノ城北遺跡(A地区:約16,500m<sup>2</sup>)の試掘を実施し、同年10・11月には、白谷岡ノ城北遺跡B～D地区と白谷岡村遺跡・白谷柄分I遺跡・白谷八幡宮遺跡・小白山山麓遺跡(約49,500m<sup>2</sup>)の試掘を実施して、工事対象地域の遺跡範囲の確認を完了した。さらに、同年12月には、白谷岡ノ城北遺跡C地区(約1,000m<sup>2</sup>)の一部について本調査を実施した。

平成3年5月には、今年度の発掘調査区域についての協議をもち、白谷岡ノ城北遺跡C地区およびA・B地区の保護策を検討し、工事のため削土せざるをえない部分の約6,600m<sup>2</sup>(A地区:約1,200m<sup>2</sup>、B地区:約200m<sup>2</sup>、C地区:約5,200m<sup>2</sup>)を発掘調査の対象とした。調査期間は6月14日から10月31日までである。

### 調査日誌抄

6月

- 14 重機による表土剥ぎ開始、器材運搬。
- 17 ベルトコンベア搬入。
- 18 人力による表土剥ぎ開始。
- 21 桧打ち・表土剥ぎ。
- 26 造構検出作業(径1～1.5mの土塊を約10～20個検出)。
- 28 Y30ラインまで表土剥ぎ、及び造構検出完了。SD-I掘り下げ、珠洲焼出土。

7月

- 3 Y60ラインまで表土剥ぎ。X44・Y30五輪塔の空・風輪出土。
- 4 X45～60・Y0～15黒色土掘り下げ。
- 8 B.M.移動。Y80ラインまで表土剥ぎ。
- 9 X45～60・Y0～15黒色土掘り下げ、珠洲焼・土師器・縄文土器出土。
- 10 縄文中期初期土器集中箇所の検出(X45～50・Y90～95)。

- 15 Y110ラインまで黒色土（縄文・平安・中世の遺物包含層）掘り下げ。
- 18 Y120ライン付近で須恵器（双耳瓶）・土師器（ロクロ土師器碗）出土。
- 19 X51・Y10で山形押型紋土器出土。X61・Y120でロクロ土師器を含む集石遺構検出。
- 23 X0～50・Y120～130堅穴状遺構3基（SI 1～3）を検出。
- 26 X0～50・Y110～150黑色土掘り下げ、遺構検出、遺構掘り。
- 31 X0～30・Y120～150掃除、遠景写真撮影。

8月

- 1 X30～80・Y105～130黒色土掘り下げ（2回目）、掻立柱建物（中世）検出。
- 5 SK-4から中世土師皿・青磁、SK-6（側木底）から縄文中期土器出土。
- 8 X30～75・Y110～130黒色土掘り下げ（3回目）、SK-5・SK-6掘り下げ。
- 12 X50～75・Y115～125黄色土下層に黑色土をはさむ谷落ち込み検出。
- 19 X40～75・Y110～125谷部落ち込み掘り下げ。SK-8から中世土師皿3枚出土。
- 20 X50～70・Y85～90遺構検出、掘り下げ。
- 22 SD-4・5掘り下げ、珠洲焼（壺・片口鉢）出土。
- 26 X30～90・Y70～90遺構掘り、精査。
- 29 遺物取り上げ（SK-35、P-20、SD-10、SX-2まで）。

9月

- 3 X30～90・Y55～60遺構掘り。1/20で遺構平面図実測。
- 11 X30～60・Y45～55遺構検出、遺構掘り下げ。
- 12 X30～80・Y40～50遺構掘り、SK-79と鏡出土。
- 17 X51・Y43から削器出土、すぐ隣の中世ピット底から剝片多数出土。
- 18 X30～80・Y35～40遺構検出、遺構掘り。X51・Y43で1m区画を黄色砂層掘り下げ、剝片多数集中する。
- 19 西井龍儀氏現場指導、縄文時代草創期ユニットと推測される。
- 24 X55・Y38深さ約2mの穴蔵？掘り下げ、SK-67斐口・石硯・漆器出土。
- 25 ユニット掘り下げ、有舌尖頭器初見。邑本順亮氏より地質・石材の助言。
- 26 X40～80・Y10～30遺構掘り。A・B地区重機による表土剥ぎ開始。
- 28 台風19号、小矢部大火。ユニット掘り下げ有舌尖頭器1点、槍先形尖頭器9点出土。
- 29 ユニット掃除・写真・実測・取り上げ、有舌尖頭器1・槍先形尖頭器3点新たに出土。

10月

- 1 雨、テント下でユニット掘り下げ、有舌尖頭器1点、槍先形尖頭器2点出土。
- 2 X50～60・Y0～10黒色土掘り下げ。ユニット西トレンチで第2ブロック検出。
- 4 全体掃除。ベルトコンベアをA地区へ移動。
- 5 1/20遺構平面図レベル入れ。
- 6 ユニット掘り下げ、実測・取り上げ。
- 7 雨、図面・遺物整理。テント下ユニット遺物取り上げ。
- 8 全体掃除。ユニットが跡、考古地磁気（富山大学理学部）サンプリング。
- 9 C地区全体遠景写真撮影。
- 10 ユニット掘り下げ、槍先形尖頭器1点。
- 12 第2ブロック、X52・Y43遺物取り上げ。

- 13 ユニットセクションベルトはずし、炉東側で叩き石2点、槍先形尖頭器1点出土。
- 15 ユニット周辺確認試掘トレンチ掘り下げ。C地区実測完了。A地区精査、杭打ち。
- 18 A地区遺構検出、掘り下げ。
- 19 A地区造構掘り。ユニットセクションベルト下遺物取り上げ。
- 20 ユニット地層断面剥ぎ取り、有舌尖頭器1点出土。
- 21 X45・Y85付近断ち割り、ユニット遺物取り上げ。
- 22 A地区造構掘り、全体探除。
- 23 A地区全体遠景写真撮影。B地区掘り下げ。
- 25 B地区谷部黒色土掘り下げ、珠洲鏡・須恵器出土。
- 26 ユニットセクションベルトはずし、有舌尖頭器1点出土。
- 27 現場説明会。ユニット遺物取り上げ。
- 29 A地区1/20造構平面図実測。B地区掘り下げ。
- 30 B地区谷東側底より獸骨出土。
- 31 B地区地層断面実測、平面平板測量。器材撤収。

### III 調査の概要

縄文時代（草創期・早期・中期）、平安時代、鎌倉～安土・桃山時代の遺構と遺物を検出した。中世を主体とする集落及び墓地である。遺跡は渋江川と支流の猪谷川の侵食によって形成された段丘の南向き舌状台地に立地し、A～D地区の4箇所に分かれる。今回の調査はC地区を主体にA・B地区の一部を発掘調査した。以下、1.遺構、2.遺物に分け、C地区次にA・B地区的順に概要を述べる。

#### 1. 遺 構

##### C地区（第3図 図版1）

縄文時代草創期の石器製作跡、縄文時代早期・中期の遺物包含層、平安時代の集石遺構、中世の建物及び墓（集落）を検出した。主体のほとんどは中世期のものである。

猪谷川の東岸にあたり、舌状を呈する遺跡範囲は南半と北半を東西に流れる溝によって分断され、両者では遺構の性格がそれぞれ異なる。つまり、北半部には平坦で掘立柱建物・竪穴状遺構などの住居関連の遺構があり、南半部には柱穴よりは大きな直径1m以上の穴が数多く密集する。土坑内の埋土には木炭及び炭粒が多く混入しており、焼けた骨片、和鏡、銅鏡、中世の陶磁器片などが出土した。中世期のはば全般にわたる永い間の集団墓地と考えたい。しかしながら各土坑内出土の遺物は極めて少ない。



第3図 C地区全体平面・断面(1/500)

## (I) 縄文草創期（第2~6・21~26図、表3、図版2）

### 遺物集中地点

縄文草創期の遺物が集中して出土した地点はC地区の南側で、南へ張り出した舌状台地の先端部近くに位置する。その範囲はおよそX45~52・Y41~45の範囲に納まる。遺物集中部分は大小2か所あり、大きい方を第1ブロック、他を第2ブロックとする（第4図）。

第1ブロックは台地の頂部から西側へゆるく傾斜する移行部にあり、東西約4m、南北約3mの範囲から22,557点ものおびただしい量の石器や剝片、碎片が出土した。このブロックのほぼ中央部には長径約70cm、短径約50cmの広さの焼土面があり、炭化物や灰層も周囲に多く、炉跡と考えられる。この焼土面の東端に接して2個の叩き石が出土し、さらに叩き石の東側を半円径にめぐるようによ多量の剝片や碎片が3か所にまとまって出土した。剝片や碎片の集中部分には小型の有舌尖頭器（第21図-1）以外、加工度合の少ない槍先形尖頭器はあるものの、他の有舌尖頭器や削器、石斧破片、石刃などの石器はむしろ剝片や碎片が少ないブロックの外縁部から出土している。なかでも有舌尖頭器は焼土面の北側に、石斧破片は南西側に片寄っている。なお、焼土面をはさみ東西に約3.6mの間隔で、2個の小ピット（JP-1, 2）を検出したがその性格は不明である。（第5図）

第2ブロックは第1ブロックの西側で、約2mおいて東西約1.5m、南北約2mの小範囲から278点の石器・剝片・碎片のはか、炭化物も多く出土した。ここではブロックの殆どが流紋岩の同一個母岩による剝片・碎片で、同材の未成品とみられる削器（第24図-5）がそこから出土している。やや離れて別な流紋岩の槍先形尖頭器の未成品1点があるだけで石器は極めて少ない。

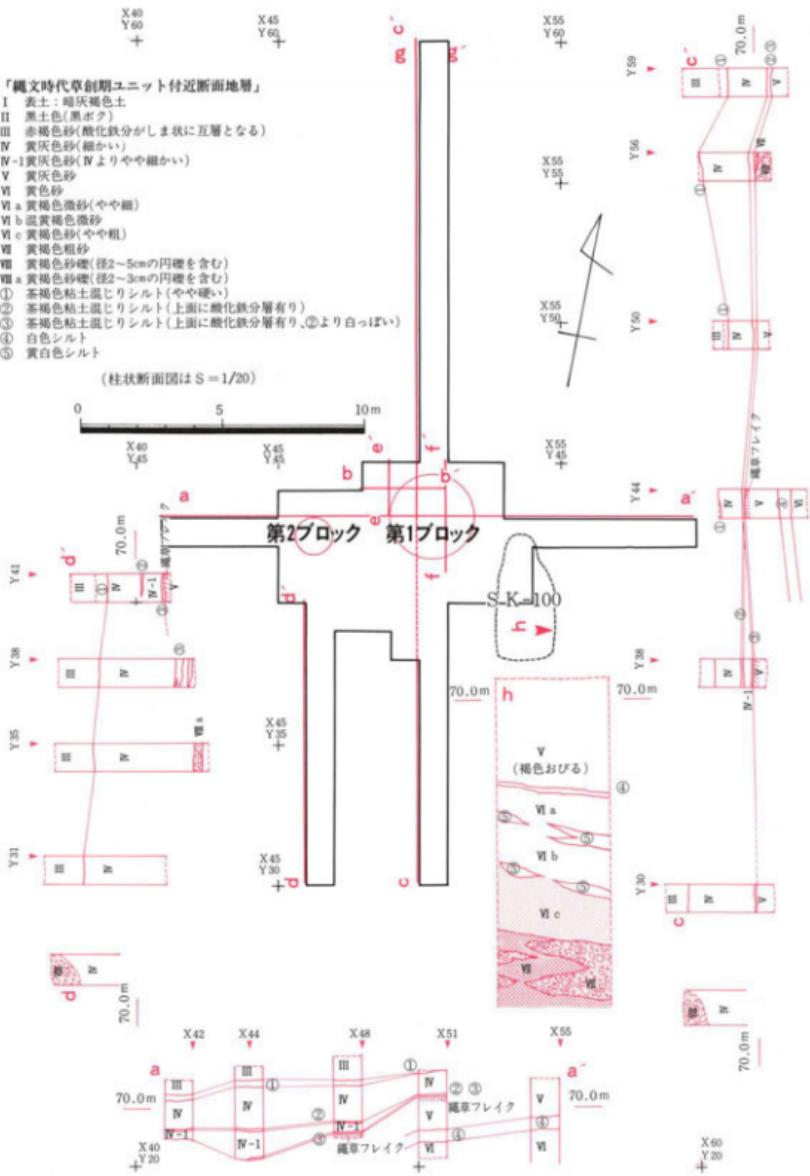
2か所のブロックは共通した石材で石器製作を行っており、石器や剝片にも共通点、互換点がみられることから、ほぼ同時期に形成された石器製作ユニットとみてよいだろう。

### 出土層位

草創期の石器は中世の遺構掘り下げによってはじめてその存在がわかったもので、その時点では上部の表土（I層）や黒色土（II層）は既に除去された状況にあった。調査地の層序は上部から均質で厚みのある砂層（III~VII層）と、薄くてしまりのあるシルト層（①~⑤層）が交互に堆積し砂礫層（VIII層）に続く（第6図）。

遺物の主な包含位置は上部から3枚目のシルト層（③層）と、その下の砂層（V層）上部にあり、その上下レベル差は5~15cmと極めて小さく、焼土面もここにある。もっとも第1ブロックではX52を頂部として、シルト層の②層と③層が1枚の層となっており、両層間の砂層（IV~I層）がなくなっている。第2ブロックでは各層が厚く、ここでは③層以下から遺物が出土している。

砂層とその間に介在するシルト層の堆積状況について、砂層は短期間の急激な堆積により、シルト層は長期間にわたるゆるやかな水の淘汰を受けた堆積と推定される。草創期の石器製作が行われたのはV層の砂層堆積直後とみられ、遺跡の南側の渋江川や西側の猪谷川の川床とは現在約10mの比高差があるものの、草創期にはそこまで高く流れていたのであろう。



第4図 繩文草創期ユニット調査区平面(1/200)・断面(1/40)

X<sub>45</sub>  
Y<sub>45</sub>

X<sub>45</sub>

X<sub>47</sub>

X<sub>48</sub>

X<sub>49</sub>

X<sub>50</sub>

X<sub>51</sub>

X<sub>52</sub>

X<sub>53</sub>  
Y<sub>41</sub>

Y<sub>44</sub>

+

+

+

+

+

+

Y<sub>41</sub>

Y<sub>43</sub>

+

+

+

+

+

+

Y<sub>41</sub>

d

+

+

+

+

+

+

Y<sub>42</sub>



第2ブロック

○

●

○

●

○

●

X<sub>44</sub>  
Y<sub>41</sub>

X<sub>45</sub>

X<sub>46</sub>

X<sub>47</sub>

X<sub>48</sub>

X<sub>49</sub>

X<sub>50</sub>

X<sub>51</sub>

X<sub>52</sub>  
Y<sub>41</sub>



+

+

+

+

+

Y<sub>42</sub>

X<sub>44</sub>  
Y<sub>41</sub>

X<sub>45</sub>

X<sub>46</sub>

X<sub>47</sub>

X<sub>48</sub>

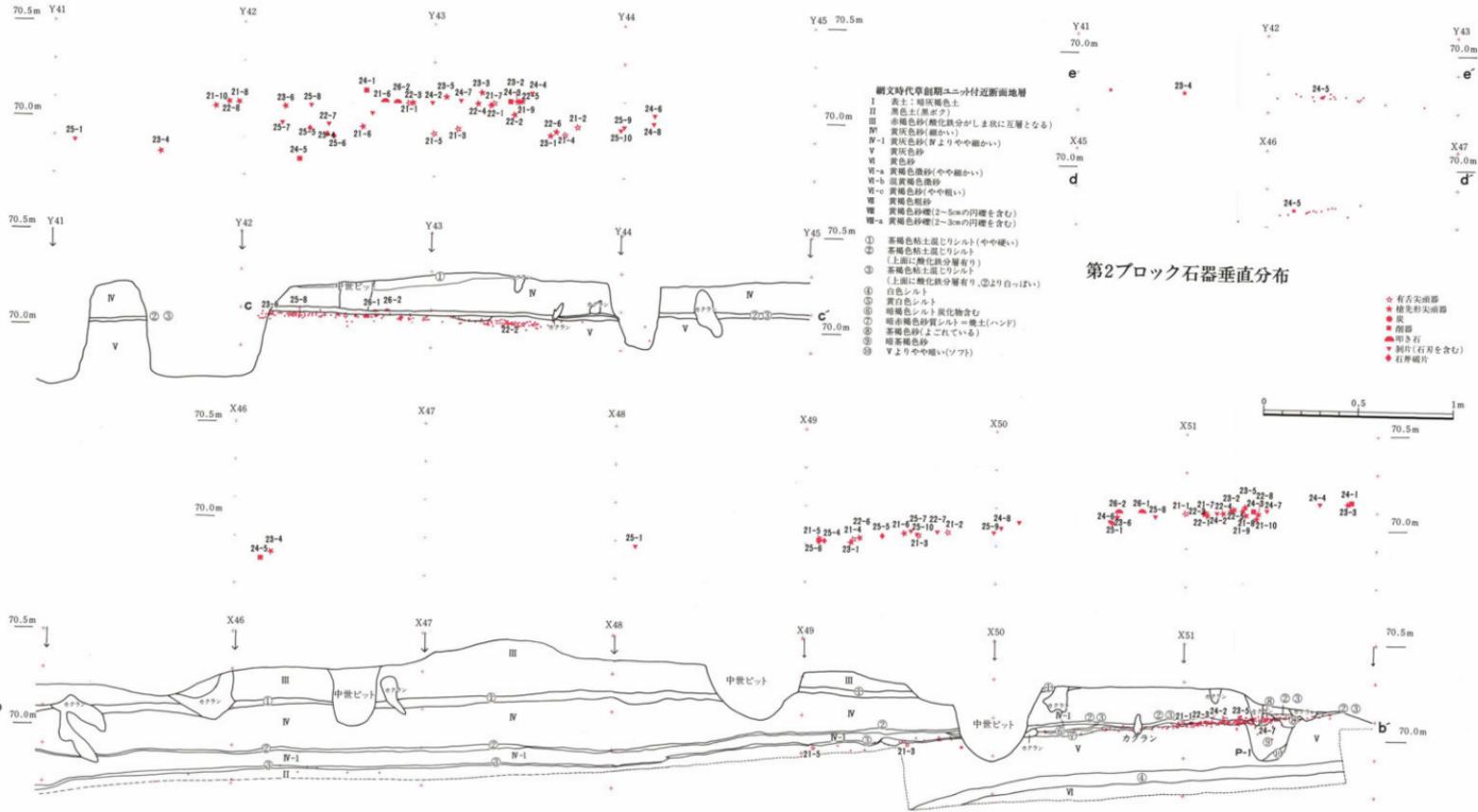
X<sub>49</sub>

X<sub>50</sub>

X<sub>51</sub>

X<sub>52</sub>  
Y<sub>41</sub>

第5図 繩文草創期ユニット平面分布と炉(1/20)



## (2) 繩文時代・平安時代

### 繩文時代（第7・32・33図、図版3）

繩文時代草創期のほかに早期と中期の出土遺物があるが、包含層あるいは中世遺構の中に混入したものがほとんどである。

繩文早期の遺物は調査区の南端、約2mの高さで一段低くなる段丘下に黒ボク層が厚く堆積した下層部分で検出した。1個体分の土器が漬れた状態で出土した（第7・17図）。胎土に黒鉛を含む回転山形押型紋土器（第33図-1～6）で周辺からは関連する出土遺物・遺構はない。その他の繩文早期土器（第31図-121・122、第33図-7～9）は調査区の南西部のⅠ層（表土なしの中世遺物包含層）中から混入出土している（表4）。平成2年度の発掘調査（調査区の北西部：X20Y85付近）で回転輪円押型紋土器がまとまって出土し、段丘斜面からの出土状況は今年度の状況によく似る。調査区西側から南側の猪谷川段丘の縁辺部には繩文早期の遺物が点在するようである。

繩文中期の遺物の多くは調査区の北部のⅡ層（黒色土：黒ボク）の堆積がのこる部分で出土している。とくに倒木底のSK-6付近では土器がまとまって出土した（第7図、第32図-140～143）。住居跡などの遺構は検出されなかった。

### 平安時代（第8・27図、図版9）

平安時代の遺物は調査区の南端と調査区の北東部のⅡ層：黒色土上層部より出土している。拳大の大きさの河原石を約1～2mの範囲で寄せ集めた遺構を3箇所検出した（第8図）。SS-1は須恵器甕や土師器椀・皿などの遺物（第27図-15～22）を含む。SS-2・3は遺物を伴わないが周辺包含層中に出土遺物があり、該期のものか不明である。

## (3) 中世（第3・9～17図、図版1・4～8）

掘立柱建物（10棟）・竪穴状遺構（3基）・井戸（2基）・土塙（約380基）・池状遺構（3箇所）・小穴（約948個）・溝（26条）を検出した。うち土塙と小穴・溝については遺物が出土したものについて遺構番号をあたえた。土塙はSK-1～107、小穴はP-1～33、溝はSD-1～11とし、一覧表に示した（表2）。

### 掘立柱建物と竪穴状遺構（第9～11図、表1・2、図版4・5）

掘立柱建物と竪穴状遺構は、調査区の北半部にすべてが集まる。掘立柱建物は2×2間（SB-2・3）、3×3間（SB-1・5）、2×3間（SB-11）の大きさで、柱間は2.2～2.3m前後がほとんどで、SB-12だけが3.5～3.8mと長い。方位はN-9～11°-Wのものが4棟（SB-3～5・7）と多い（表1）。SB-7の柱穴から中世土師皿（第27図-1・2）が出土した。

調査区の北東部で一辺2.3～3.2mの方形に落ちくぼむ竪穴状の遺構（第10・11図：SI-1～3）を3基検出した。遺構検出面はⅡ層上面である。床及び壁は鉄分などの沈着で固く締まっている。覆土には炭や焼土粒が混入し、出土遺物（第27図-11～13）から南北朝時代頃の所産と考えたい。

### 井戸・土塙・小穴・池状遺構（第3・12～16図、第27～32図、表2、図版6～8）

土塙・小穴（P・SK・SE・SX）は合計約1,200個を検出した。うち、遺物が出土したものあるい

は特徴的な穴は155個あり、番号を与えた。大きさによる分類から、直径0.4m以内：SS、0.5~0.9m：S、1.0~1.4m：M、1.5~1.9m：L、2.0以上：LLとした。結果、SSが22個、Sが43個、Mが35個、Lが17個、LLが32個となる。また、深さから0.2m以下：S、0.3~0.5m：M、0.6~1.0m：D、1.1以上：DDと分類した場合の統計では、SSが49個、Mが68個、Dが28個、DDが4個となる。遺構内出土遺物は少ないが、時代を特定できる穴は中世が98個あり、うち中世でも15世紀以降のものは23個ある。

上記の分類から以下の傾向がつかめる。径0.5~0.9m、深さ0.5m以下で中世に特定できる穴が22個(P-1・12・16・19・24・26・33、SK-1・15・16・29・34・36・44・61・71・94・95・98・105)と多く、うち中世後期に特定できる穴はSK-1とSK-95である。また、径2m以上、深さ0.5m以下の中世の穴は20個(SK-12・41・42・43・49・51・52・62・82・83、SX-1~3)があり、うち中世後期が5個(SK-12・42・43・82・91、SX-1~3)と比較的多い。また、径1.0~1.4m、深さ0.3~0.5mの中世の穴は9個(SK-31・53・55・57・72・78・96・102・103)ある。それぞれのタイプの、大きさによる穴の性格の違い、また存続時間幅が考慮される。SXとした池状遺構はいずれも中世後期の越前焼・瀬戸焼・染付などの遺物を伴う。埋土に多くの炭を含み、SX-2からは銅鏡(宋?)も出土した。SX-3とSX-1は調査区内の中央東側に位置し、大小の池状を呈する。SX-2(浅い土塙群)はSX-1の西縁辺を巡るかたちとなる。火葬場としての性格が推定される。

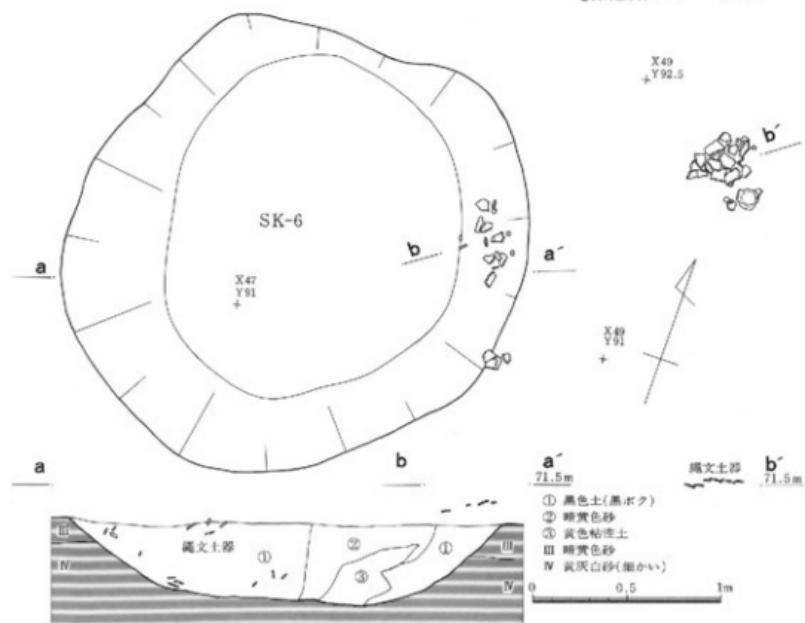
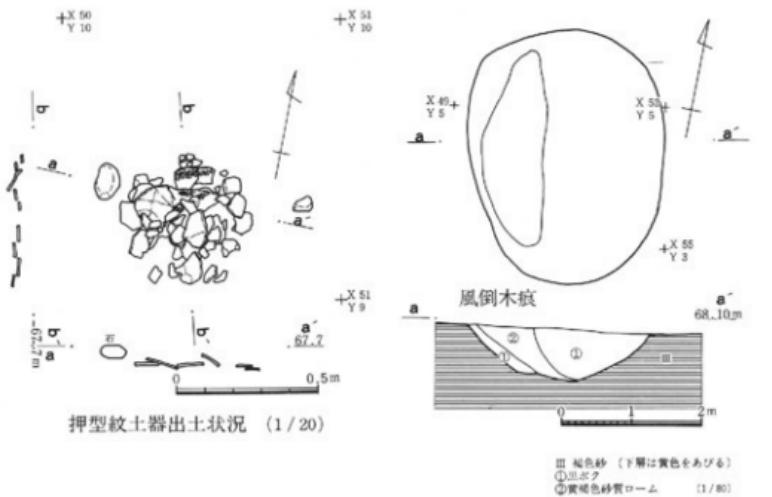
SK-8、SK-4で中世土師皿が完形で上向きに供された状態で出土した以外は、ほとんどが破碎土器片が出土する程度である。SK-2・3の埋土は断面が年輪状を呈し、放棄後の自然堆積とみられる。大きさもよく似る。

SK-79・5・82・83・43・36などは径2m程度の大きさで、0.2~0.3mのやや深い隅丸方形ないし円形を呈し、石や土器・石臼・石鉢など比較的出土遺物の多い穴である。特異なものとしてSK-79からは和鏡1面(第31図-125)が出土し、SK-67から石硯(第30図-115)・漆器椀・フイゴ羽口、SK-103からは層塔が出土した(第13図)。

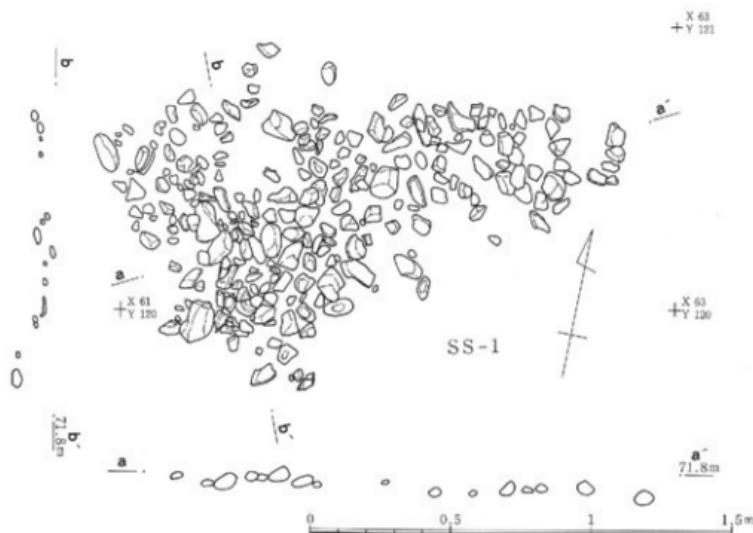
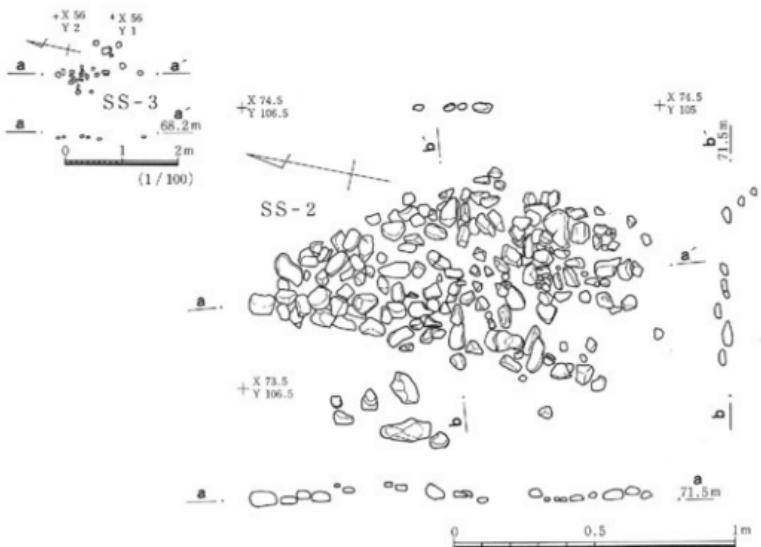
SK-100は全長4.0m、幅2.1mの平面隅丸長方形を呈し、深さ2.2mを測る大きな穴である。底には太さ5cm程度の木材をはしご状に並べた痕跡が残り、地面から床を持ち上げためのものと考えられる。また、埋土の堆積は天井が落盤した状況を示し、空洞状態で使用された穴倉状の遺構と考えられる。

#### 溝(第3・17図、表2、図版1)

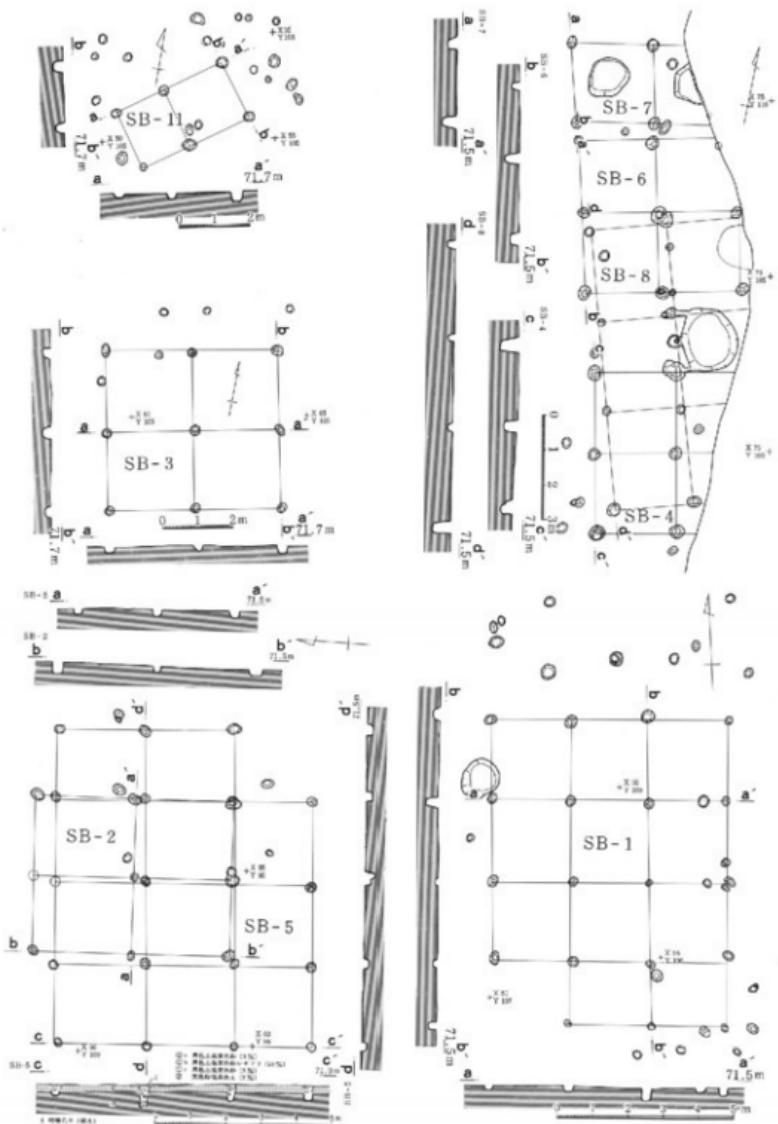
SD-4~10は墓域と集落を区分する重要な役目をはたしたものと考える。SD-4とSD-8は幅約1.2~1.5mを隔て平行に走り、道の側溝ともみられる。SD-1はSX-3からの排水溝と推測される。SD-10は、SD-1とつながり西側段丘縁辺を連続して巡るものと考えられる。土塙墓群を囲む周溝か。なお、SD-1付近X60~80・Y20~40あたりは鉄鋤・フイゴが比較的まとまって出土した。SD-1・5・10は中世後期の遺物が出土した。SD-4、8より新しい。



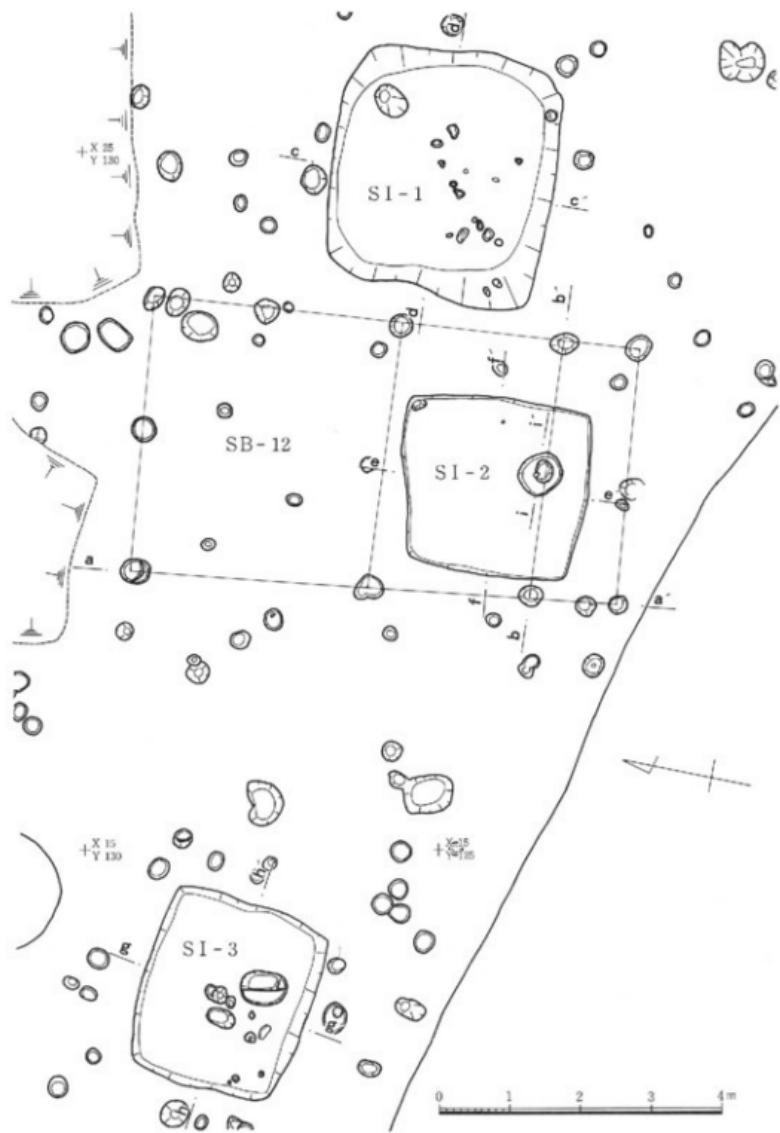
第7図 繩文早期押型紋土器出土状況(1/20), 風倒木痕(1/80), 繩文中期土器出土状況(SK-6)(1/30)  
平面・断面



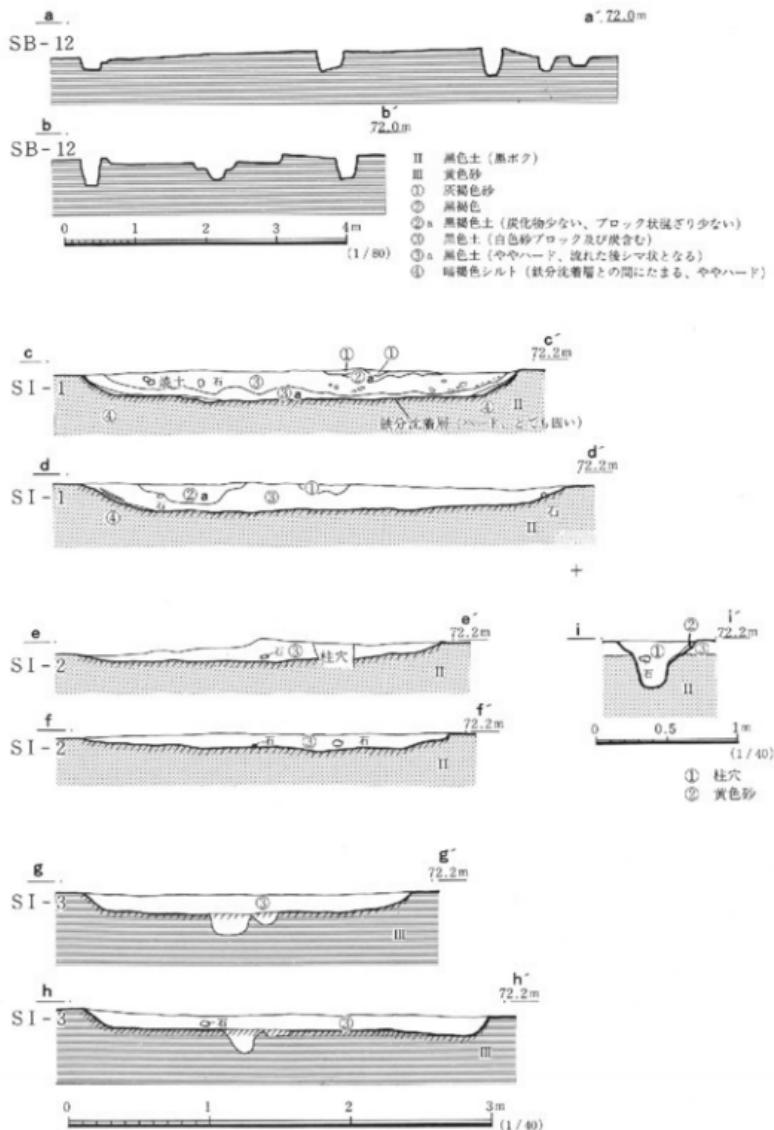
第8図 集石構造(SS-1~3)平面・断面(1/20)



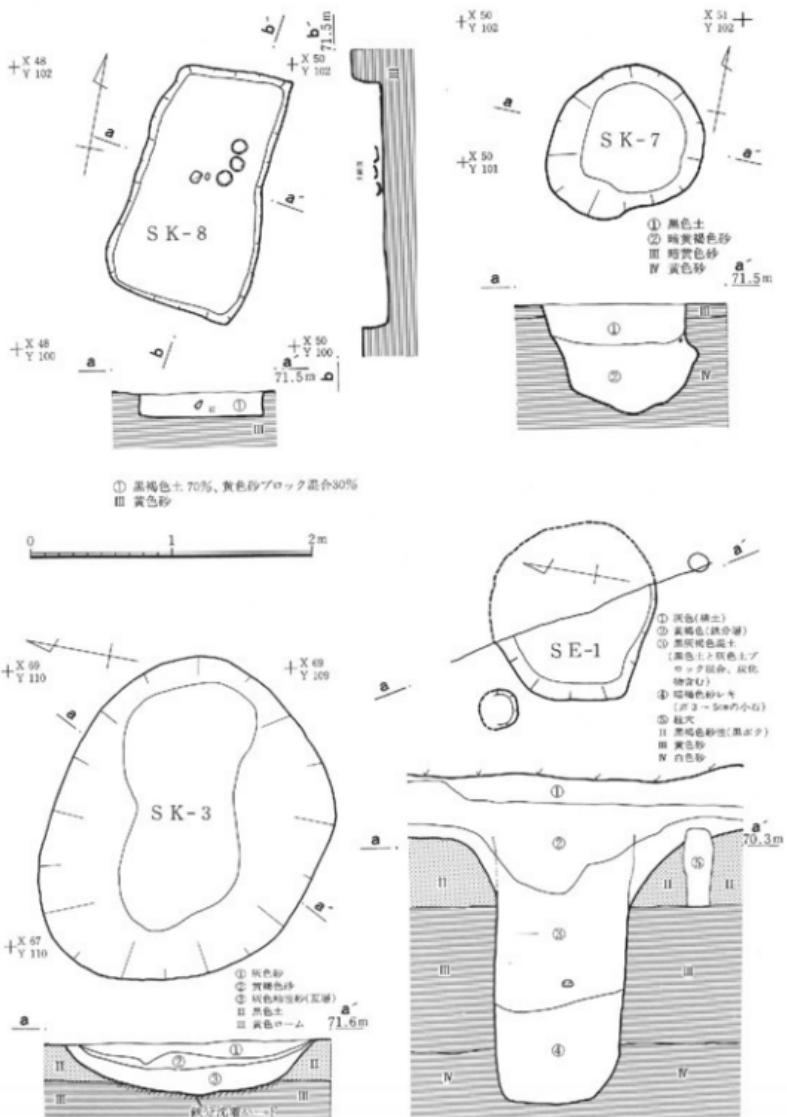
第9図 建物(SB-1~8, 11)平面・断面(1/160)



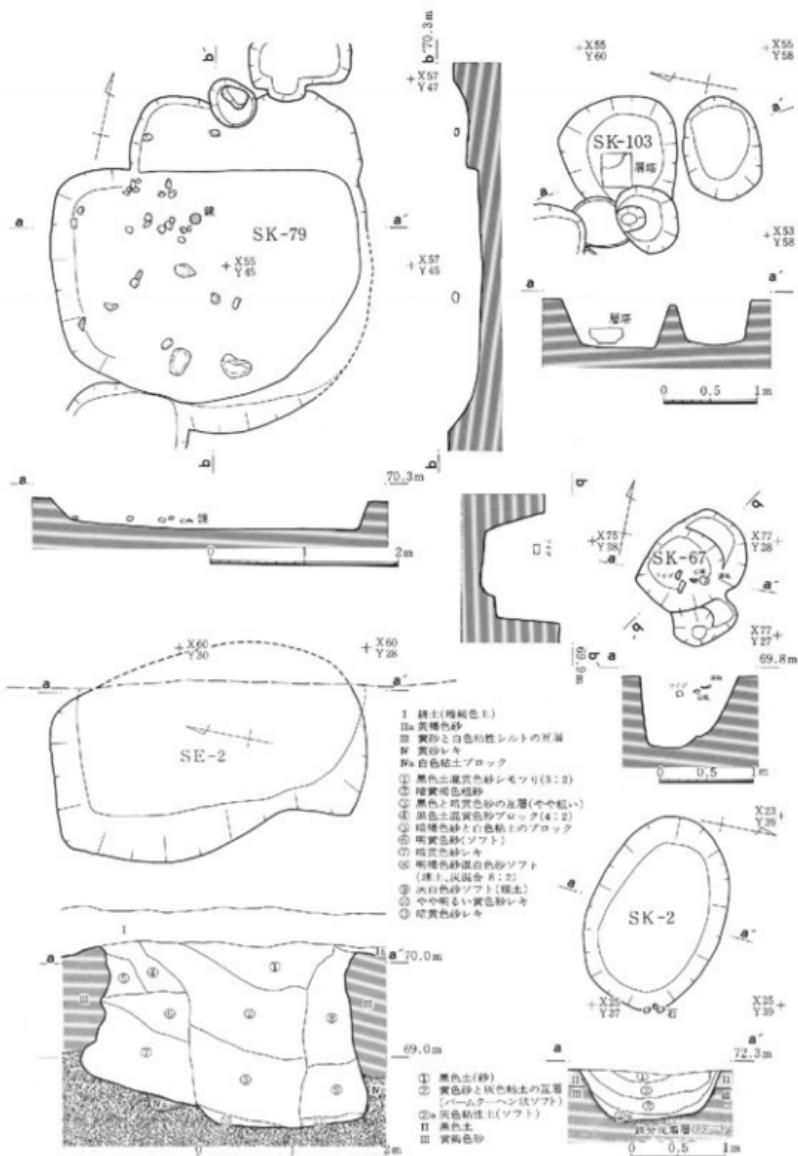
第10図 建物(SB-12), 竪穴状遺構(SI-1~3)平面(1/80)



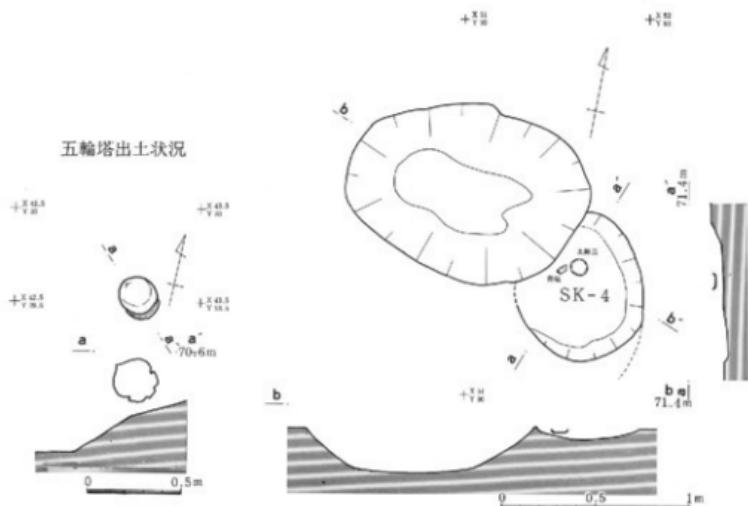
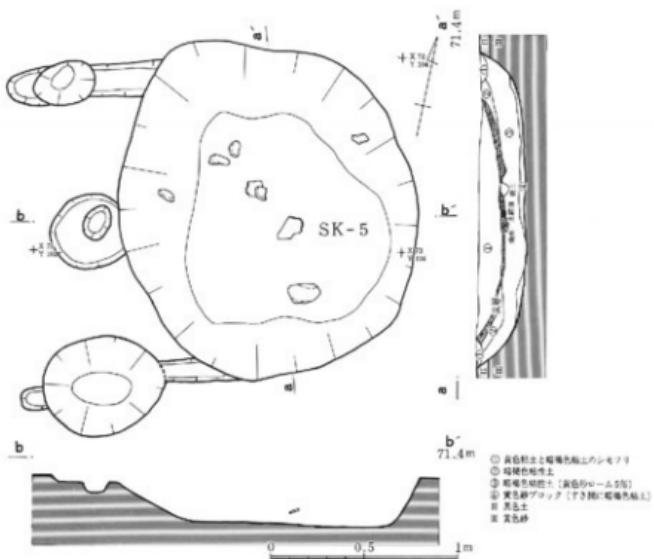
第11図 建物(SB-12)(1/80), 備穴状遺構(SI-1~3)(1/40)断面



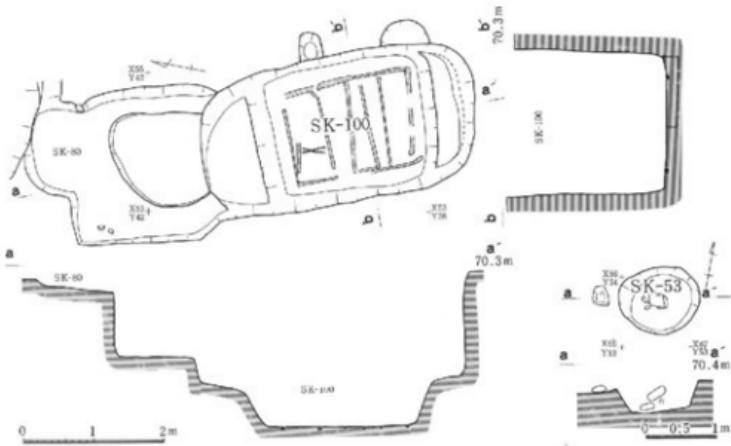
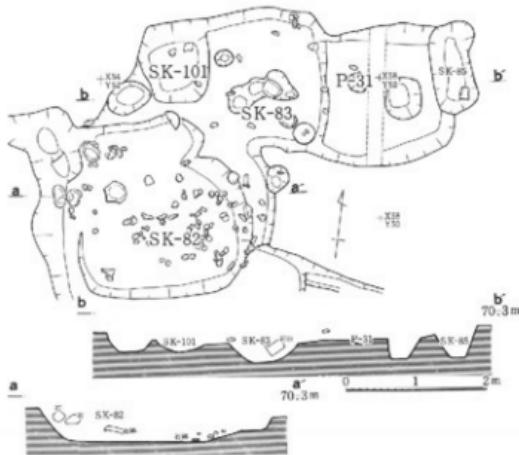
第12図 井戸(SE-1), 土壌(SK-3,7,8)平面・断面(1/40)



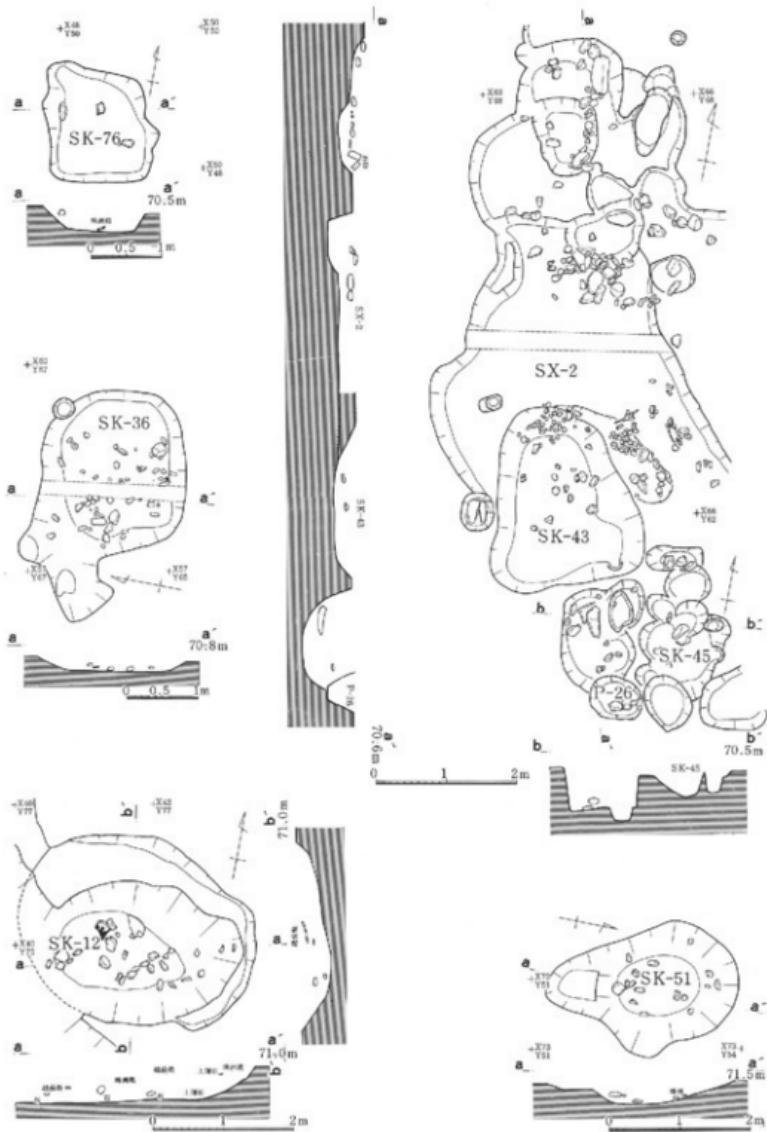
第13図 井戸(SE-2), 土壌(SK-2.67.79.103)平面・断面(1/60)



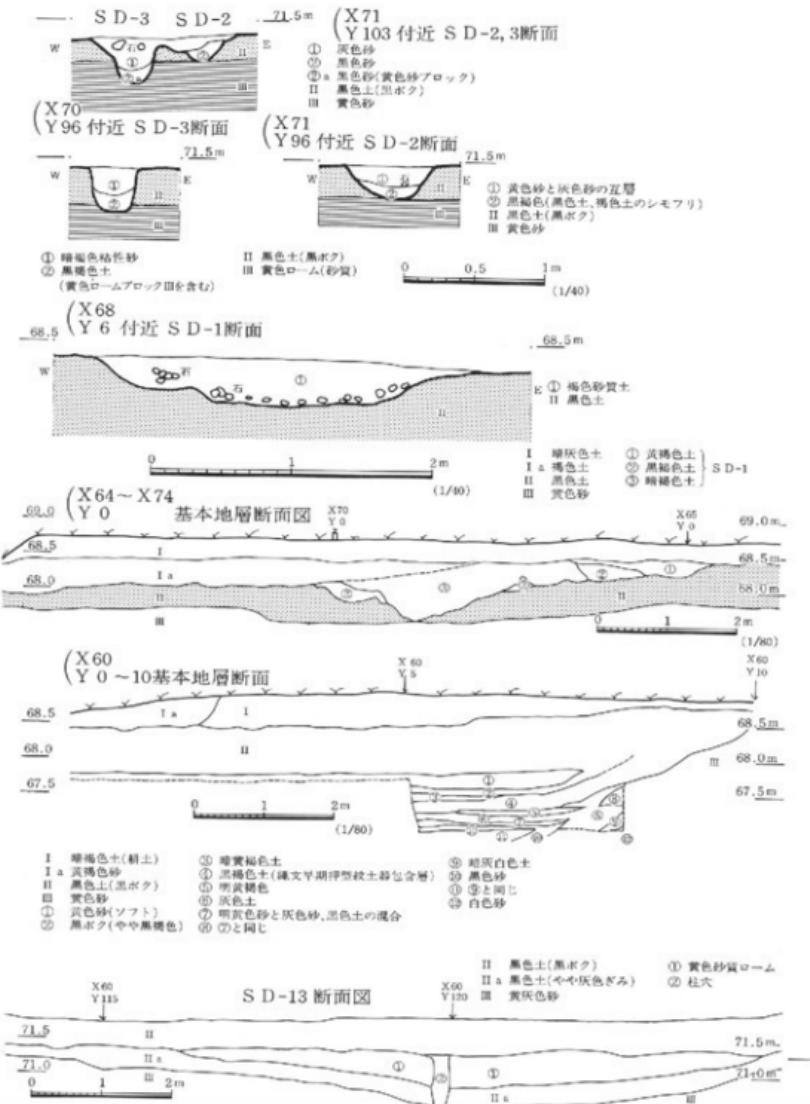
第14図 土塙(SK-4.5), 五輪塔出土状況平面・断面(1/30)



第15図 土塙(SK-53, 80, 82, 83, 85, 100, 101)平面・断面(1/80)



第16図 土塙(SK-12.36.43.45.51.76), 穴(P-26), 池状遺構(SX-2)平面・断面(1/80)



第17図 溝(SD-1~3)(1/40), 基本地層(1/60)断面

### A・B地区

A地区(第18-19図、第31図-138-139、図版10) 遺跡範囲の西端1,200m<sup>2</sup>を発掘し、掘立柱建物2棟(SB-9・10)、方形に巡る溝1箇所(SD-12)、径0.5m未満の小穴約200個(AP-1-2ほか)、径0.5m以上の土塁8個(SK-108ほか)を検出した。基本層序はI層：暗褐色土(耕作土)、II層：黄褐色粘性土(鉄分の沈澱した漸移層)、III層：黒色粘性土(中世遺物包含層)、IV層：黄白色粘土である。C地区の地山層が砂礫層であったのに対し、A地区では粘土層で全体に粘性をおびる。SB-10の柱穴からは大ぶりの土師質皿(第31図-138)が出土した。古代末中世初頭頃か。SB-9は南・西・北の3面に廂あるいは柵をもつ。柱穴は柱あたりが明瞭で一辺12cmの方形であることが確認できた。方形区画溝(SD-12)は一辺5.4mの正方形で北東と北西の隅に陣籬をもつ。南辺溝中央付近には拳大の石が集まり、珠洲IV期(吉岡編年)の片口鉢(第31図-139)が出土した。中央にマウンドをもつ中世の墳墓と考えたい。

B地区(第20図、第32図-183-188、図版8) 遺跡範囲の南端一部、約200m<sup>2</sup>を発掘。幅約6m、深さ約2.4mの谷(溝か)を検出した。溝の東側には一段のテラスがあり、テラス上には大型動物(馬か牛か)の骨がまとまって出土した。共伴した遺物は繩文土器・土師器・珠洲焼・中世土師皿(第32図-183-188)があり、もっとも新しい時代でおさえれば、中世であろう。なお溝の底にはVI層が噴き上がりたとみられる亀裂(噴砂か)があり、地震によるものであろうか。

表1-1 C地区掘立柱建物(SB)

番	棟方向	規模(間)	桁 行(m)	梁 行(m)	方 位	面 積 m <sup>2</sup>	備 考
1	南北	3×3	6.9 @2.3	6.6 @2.2	N-2°-E	46	南廂
2	南北	2×2	5.7 @2.85	4.4 @2.2	N-7.5°-W	25	
3	東西	2×2	4.9 @2.45	4.5 @2.25	N-11°-W	22	
4	南北	2×2以上	4.7 @2.35	2.3 @2.3	N-11°-W	11以上	
5	南北	3×3	7.4 @2.45	6.9 @2.3	N-9°-W	51	東廂
6	(東西)	2×2以上	4.5 @2.25	4.4 @2.2	N-12.5°-W	20以上	
7	東西	1×1以上	2.2 @2.2	2.2 @2.2	N-10°-W	5以上	
8	南北	3×2以上	8.1 @2.7	2.2 @2.2	N-16°-W	18以上	
11	南北	2×3	6.6 @2.2	4.4 @2.2	N-28°-E	28	東西廂
12	南北	2×1	6.9 @3.5	3.8 @3.8	N-6°-W	26以上	桁行に中柱

表1-2 A地区掘立柱建物(SB)

番	棟方向	規模(間)	桁 行(m)	梁 行(m)	方 位	面 積 m <sup>2</sup>	備 考
9	南北	2×3	6.6 @2.35	4.4 @2.2	N-34°-E	28	四方廂?
10	南北?	4×2以上	4.4 @2.2	6.6 @3.3	N-11°-W	88以上	

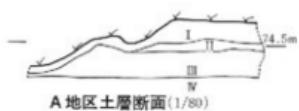
表1-3 A地区 遺構一覧

遺構	番号	X	Y	長 径	短 径	深さ	広	深	時代	出 土 遺 物 (点数)	図 版 号
AP	1	31	48	0.5	0.4	0.3	S	M	中世	中世土師皿1	中世土師皿(138)
AP	2	29	42	0.5	0.4	0.3	S	M	中世	青磁4 中世土師皿1	
SE	3	29	44	1.2	1.2	1.0	M	D	中世	木片10 曲物2	
SK	108	27	41	2.1	1.3	0.2	LL	S	中世	土師皿1	
SD	12	17 23	24 31	(長幅) 0.8	(短幅) 0.5	0.3	/	/	中世	珠洲片口鉢1	珠洲片口鉢(139)



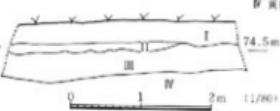
第18図 A地区全体平面(1/300)

(X20  
Y33-37 地層断面



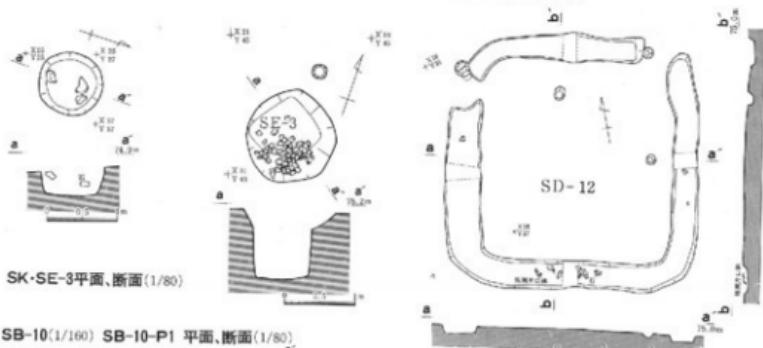
A地区土層断面(1/80)

(X16-20 地層断面  
Y37

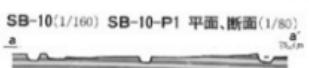


I 黄土(暗褐色粘性土)  
II 黄褐色粘性土(黄沙分层地层)  
III 黑色粘性土(中生植物包含层)  
IV 黄白色粘土

方形区画溝(SD-12)平面、断面(1/80)



SK-SE-3平面、断面(1/80)



SB-10(1/160) SB-10-P1 平面、断面(1/80)

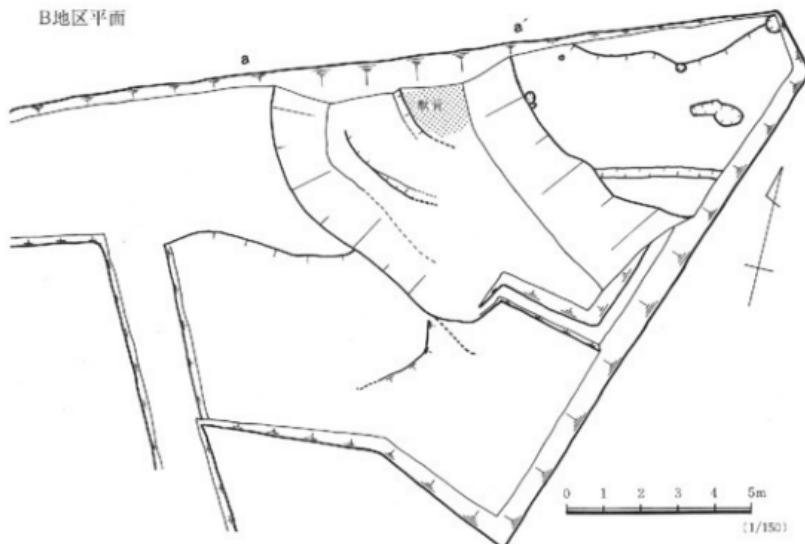


a b a' b'

74.5m

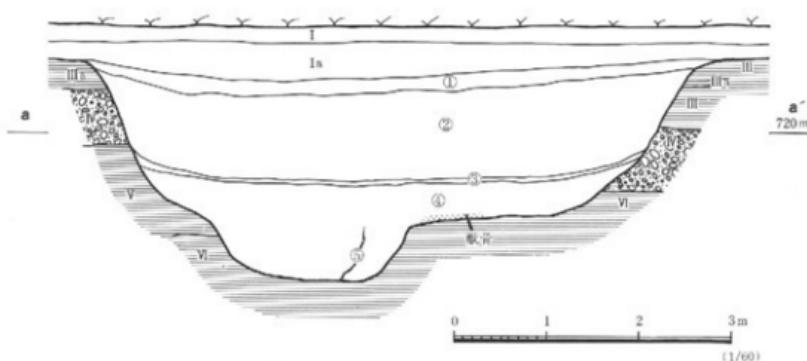
a b a' b'

B地区平面



I	暗褐色土(稍土)	① 黄色砂ブロック混黑色土
II	灰褐色土	② 黑色土
III	黄色砂	③ 黄色砂(ソフト)
IIIa	シルト	④ 黑褐色土(ソフト)
IV	砂レキ	⑤ 青砂キレフ
V	青色粘土	
VI	青色砂	

B地区谷断面



第20図 B地区全体平面(1/150)・断面(1/60)

表2 C地区 遺構一覧

No.1

遺構	番号	X	Y	既存	既存	既存	床	床	床	床	床	小・中・大・物(数値)			回収番号	
												柱	梁	板		
P	1	72	199	0.5	0.2	0.3	S	M	中世	中世上部柱1	土壁片1				中世生礦組(3)	
P	2	74	116	6.4	0.3	0.3	S	S	文	文十形1						
P	3	52	117	0.4	0.4	0.1	SS	S	?	?						
P	4	44	115	0.5	0.4	0.4	SS	M	?	織光上部3						
P	5	39	115	0.4	0.4	0.3	SS	M	古代	十脚器1						
P	6	39	129	0.5	0.4	0.4	S	M	?	織文上部1						
P	7	16	127	0.7	0.4	0.3	S	M	?	上脚片1						
P	8	47	111	0.5	0.5	0.2	SS	S	?	下脚片1						
P	9	59	119	0.5	0.5	0.2	SS	S	?	木炭2						
P	10	49	117	0.4	0.4	0.1	SS	S	?	木炭3						
P	11	74	79	0.4	0.4	0.5	SS	D	?	七脚片1						
P	12	53	29	0.5	0.5	0.1	S	S	中世	中世上部柱1	土壁片1					
P	13	59	29	0.3	0.3	0.2	SS	S	?	土壁片1						
P	14	57	25	0.7	0.7	0.2	S	S	?	上脚片2						
P	15	56	35	0.4	0.4	0.3	SS	M	?	木炭1						
P	16	59	71	0.5	0.3	0.3	S	M	中世	織文上部1	十脚片1	古脚1		織文組(4)		
P	17	67	73	0.4	0.4	0.3	SS	M	中世	中世土壁組1				中世+織文(5, 6)		
P	18	69	73	0.4	0.4	0.1	SS	S	?	木炭1						
P	19	67	73	0.6	0.6	0.1	S	S	中世	織文上部1	小世上脚片1			中世上部組(7)		
P	20	62	75	1.1	0.6	0.4	M	M	?	?						
P	21	62	75	0.6	0.6	0.6	SS	S	中世	中世上部柱1	織文上部1	木炭1				
P	22	62	75	0.2	0.2	0.2	SS	S	?	?						
P	23	50	22	0.6	0.4	0.2	S	M	?	木炭2						
P	24	64	29	0.5	0.5	0.3	S	M	中世	織文上部1						
P	25	34	66	0.6	0.5	0.3	S	M	?	?						
P	26	66	66	0.8	0.6	0.2	S	S	中世	中世上部柱1	木脚1			中世上部組(8)		
P	27	63	62	0.5	0.4	0.7	S	D	中世	織文上部1				織文組(9)		
P	28	85	52	0.2	0.2	0.2	SS	S	中世	織文上部1						
P	29	63	62	0.5	0.4	0.7	S	D	中世	織文上部1						
P	30	68	53	0.3	0.3	0.1	SS	S	中世	織文上部1						
P	33	59	29	0.8	0.6	0.2	S	M	中世	中世+織文1				中世上部組(10)		
NBSP	1	63	66	0.2	0.2	0.2	SS	S	中世	織文1						
NBTP	1	72	110	0.4	0.4	0.2	SS	M	中世	中世上部柱1	木脚1(41, 42)			中世土脚組(1) + 土脚替1(2)		
SK	1	73	111	1.1	1.1	1.7	M	DD	中世	中世上部柱1	上脚片1			中世上部組(14)		
SK	2	79	33	3.5	1.5	4.9	LL	DD	?	?						
SI	1	23	126	3.4	3.2	3.2	/	/	中耕	織文上部1	木脚1			織文上部組(11)		
SI	2	29	128	2.6	2.5	0.1	/	/	中耕	中世上部1						
SI	3	14	128	2.8	2.4	0.2	/	/	中耕	中世上部1	木脚1					
SS	1	63	120	1.9	1.4	/	/	/	古代	織文替1(4脚)	上脚1(4脚)	織文上部1		織文替1(15, 17, 19, 古18) + 織文替2(20) + 織文上部1(21)		
SS	2	24	106	1.5	1.0	/	/	/	?	?	?	?				
SS	3	55	1	1.6	1.0	/	/	/	?	?	?	?				
SX	1	72	64	12.3	6.9	0.4	LL	M	中世	織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚)				織文上部組(12)		
SX	2	64	67	7.8	3.8	0.3	LL	M	中世	織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚)				織文上部組(13)		
SX	3	76	46	14.2	11.0	0.4	TJ	N	中世	織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚)				織文上部組(14)		
SK	1	63	3	0.6	0.5	0.5	S	M	中世	織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚)				織文上部組(15)		
SK	2	75	128	2.1	1.4	0.5	LL	M	中世	織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚)				織文上部組(16)		
SK	3	68	109	2.4	1.9	0.3	LL	M	中世	織文上部1(6脚, 6脚)				織文上部組(17)		
SK	4	52	110	1.7	1.0	0.2	L	S	中世	織文上部1(6脚, 6脚)				中世土脚組(18)		
SK	5	68	154	0.8	0.6	0.2	S	M	中世	織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚)				中世上部組(19)		
SK	6	68	92	2.4	2.0	0.4	LL	M	中世	織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚)				織文上部組(20)		
SK	7	52	105	1.2	1.1	0.2	M	D	?	?	?	?	?	?	?	
SK	8	50	101	1.7	0.9	0.2	L	S	中世	中世上部柱1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚)				中世生礦組(21~29)		
SK	9	31	87	1.7	0.9	0.2	L	S	中世	中世上部柱1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚)				中世生礦組(30~39)		
SK	10	47	87	2.8	1.1	0.3	LL	M	?	織文上部1						
SK	11	47	80	1.1	0.9	0.6	M	D	?	?	?	?	?	?		
SK	12	42	72	3.5	2.7	0.3	LL	M	中世	織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚)				織文上部組(40)		
SK	13	56	76	1.5	0.6	0.5	L	S	中世	織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚)				織文上部組(41)		
SK	14	52	75	0.8	0.5	0.4	S	M	?	?	?	?	?	?		
SK	15	59	75	0.6	0.6	0.3	S	M	中世	織文上部1(6脚, 6脚)				織文上部組(42)		
SK	16	55	75	0.6	0.4	0.4	S	M	中世	織文上部1(6脚, 6脚)				織文上部組(43)		
SK	17	55	72	1.6	0.6	0.6	M	D	?	?	?	?	?	?		
SK	18	56	72	1.7	1.3	0.7	L	D	中世	織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚)				織文上部組(44~47)		
SK	19	57	71	1.7	1.3	0.5	L	M	中世	織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚)				織文上部組(48~50)		
SK	20	62	73	1.2	1.0	0.6	M	D	中世	織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚)				織文上部組(51)		
SK	21	62	71	1.6	0.7	0.7	L	D	中世	織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚)				織文上部組(52)		
SK	22	57	75	1.3	0.8	0.7	M	D	?	?	?	?	?	?		
SK	23	62	71	0.9	0.9	0.5	S	D	中世	中世上部柱1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚)				中世上部組(53)		
SK	24	65	73	1.8	0.2	0.3	L	S	?	?	?	?	?	?		
SK	25	62	75	2.4	0.6	0.4	L	D	中世	織文上部1(6脚, 6脚) + 織文上部1(6脚, 6脚)				織文上部組(54)		
SK	26	64	75	0.9	0.9	0.3	M	D	?	?	?	?	?	?		
SK	27	56	75	1.1	0.6	0.1	M	S	?	?	?	?	?	?		
SK	28	65	77	0.7	0.7	0.4	S	M	?	?	?	?	?	?		
SK	29	65	67	0.7	0.6	0.1	S	S	中世	中世上部柱1(6脚, 6脚)				中世生礦組(55)		
SK	30	67	76	1.2	0.8	0.3	M	M	古代	中世土脚組(61)						
SK	31	64	77	1.0	0.8	0.4	M	M	中世	中世上部柱1(6脚, 6脚)				中世生礦組(56)		

遺構	番号	X	Y	面積	堆積	地質	時代	出土 物 (点数)		回 取 番 号
								土	石	
SK	32	64	76	0.6	0.5	0.2	S	?	土被片1	
SK	33	61	77	0.5	0.3	0.3	S	M	?	土被片1
SK	34	61	78	0.5	0.4	0.3	S	M	中砂	中砂上部(109)
SK	35	63	79	1.5	1.1	0.8	L	D	中砂 粘土被片	
SK	36	59	66	3.2	2.3	0.2	LL	S	?	
SK	36	55	70	0.7	0.6	0.1	S	S	中砂	粘土(色1) 砂(2) 粘土被片1 中砂上部(2) 土被片2 (アーチカル) 粘土石片1
SK	37	59	64	2.1	1.3	0.5	LL	M	?	
SK	38	59	61	0.9	1.6	0.5	S	M	?	土被片2
SK	39	61	53	1.7	0.4	0.6	L	D	?	小瓦5
SK	40	59	89	0.9	0.8	0.5	S	M	?	
SK	41	49	68	2.8	2.5	0.1	LL	S	?	粘土塊4 中砂上部(2) 粘土被片1 粘土被片2 土被片2 (アーチカル) 粘土石片1
SK	42	52	67	2.9	2.6	0.3	LL	M	?	中砂
SK	43	64	62	2.5	1.0	0.3	LL	M	中砂	粘土塊1 粘土塊2 粘土被片1 土被片6 粘土塊1 土被片2 (アーチカル) 粘土被片1 土被片6 粘土塊1 土被片2 (アーチカル) 粘土被片1 土被片6 粘土塊1
SK	44	66	61	0.8	0.3	0.2	S	S	?	中砂
SK	45	66	61	0.8	0.3	0.2	M	S	?	中砂 黄褐色土
SK	46	51	79	0.4	0.4	0.5	SS	M	?	中砂 黄褐色土
SK	47	59	77	0.6	0.6	0.3	S	M	?	中砂上部(1) 粘土被片1 粘土被片2
SK	48	59	77	0.7	0.7	0.6	S	D	?	中砂
SK	49	62	65	1.9	2.6	0.2	LL	S	?	中砂 青褐色土
SK	50	79	57	1.5	1.5	0.1	L	S	?	中砂 粘土塊1 黏土(灰褐色)
SK	51	72	33	2.7	1.8	0.2	LL	S	?	中砂 中砂上部(1) 黏土塊2 土被片2
SK	52	71	54	2.2	1.0	0.1	LL	S	?	中砂 粘土(白褐色) 石片41
SK	53	67	58	1.2	1.0	0.4	M	M	?	粘土塊1
SK	54	65	55	1.2	0.6	0.1	M	S	?	中砂 黄褐色土
SK	55	66	56	2.0	0.8	0.3	S	M	?	中砂 黄褐色土
SK	56	65	63	0.8	0.6	0.2	M	S	?	中砂 黄褐色土
SK	57	61	61	0.9	0.5	0.2	S	S	?	中砂 黄褐色土
SK	58	67	66	1.0	0.7	0.5	M	M	?	中砂 粘土塊1
SK	59	62	66	0.8	0.6	0.4	S	M	?	中砂 青褐色土
SK	60	51	53	7.1	0.7	0.8	M	D	?	中砂 成層土(1) 中砂土(2) 土被片1 木炭2
SK	61	63	32	9.6	0.6	0.2	S	S	?	中砂 青褐色土
SK	62	64	51	2.2	1.7	0.2	LL	S	?	中砂 石片41 不燃2
SK	63	76	35	1.1	0.7	0.8	M	D	?	中砂 底被片1 粘土被片1 粘土文26 砂1 木炭3
SK	64	72	35	1.6	0.8	0.8	L	D	?	中砂 铁刹1
SK	65	73	31	0.5	0.4	0.6	S	S	?	中砂 底被片1 フィアロロ1
SK	66	73	29	0.2	0.2	0.2	SS	M	?	中砂 粘土(白色)
SK	67	26	28	0.2	0.2	0.1	S	S	?	中砂 青褐色土(1) ワイド被片1
SK	68	54	52	0.6	0.9	0.5	LL	M	?	中砂 成層土(1) 不燃2
SK	69	59	33	0.2	0.4	0.2	S	S	?	中砂 底被片1 土被片21 ワイド被片1
SK	70	57	33	0.4	0.3	0.1	SS	S	?	中砂 中砂上部(1) 土被片4
SK	71	55	37	0.7	5.5	0.2	S	S	?	中砂 成層土
SK	72	51	37	1.2	1.0	0.3	M	M	?	中砂 底被片1
SK	73	52	38	2.2	2.0	1.0	LL	D	?	中砂 底被片1 粘土被片1
SK	74	49	37	2.2	1.3	0.2	LL	S	?	中砂 土被片2
SK	75	49	48	?	?	?	?	?	?	?
SK	76	47	36	0.4	0.4	0.1	SS	S	?	土被片1
SK	78	49	49	1.6	1.5	0.3	L	M	?	中砂 粘土塊1
SK	77	51	49	0.4	0.3	0.2	SS	M	?	中砂 粘土塊1
SK	78	52	47	1.1	0.7	0.3	S	S	?	中砂 底被片1 粘土被片1 土被片2
SK	79	52	47	0.9	2.2	0.5	M	S	?	中砂 成層土(1) 粘土被片1 土被片2
SK	80	54	47	0.7	2.2	0.2	LL	D	?	中砂 成層土(1) 土被片2 土被片1
SK	81	54	45	0.2	2.2	0.2	LL	D	?	中砂 底被片1
SK	81	53	45	1.1	0.6	0.3	M	M	?	
SK	82	55	50	3.4	3.1	0.3	LL	M	?	粘土被片1 砂(2) 砂石1 砂石3 土被片1 砂被片1
SK	83	56	52	2.6	2.0	0.2	LL	S	?	中砂 中砂土(2) 砂石1
SK	84	57	54	1.7	0.7	0.4	L	M	?	中砂 中砂土(2)
SK	85	59	59	1.3	0.6	0.4	M	M	?	中砂 円錐瓶7.3 土被片1
SK	86	52	54	1.1	0.7	0.2	M	S	?	中砂 粘土塊1
SK	87	52	51	1.7	0.8	0.1	L	S	?	中砂 粘土塊1 土被片1 砂22
SK	88	50	49	0.6	1.0	0.2	D	S	?	中砂 砂(2) 砂石1 砂(1) 砂石2 砂石3
SK	89	46	46	3.4	3.1	0.6	LL	M	?	中砂 底被片1
SK	90	45	39	2.5	2.4	0.4	LL	M	?	中砂 底被片2
SK	91	44	37	2.3	1.2	0.2	LL	S	?	中砂 底被片1 砂被片1 砂被片1
SK	92	47	36	3.2	2.9	0.2	LL	S	?	中砂 砂(2) 砂被片1
SK	93	53	55	0.5	0.3	0.5	S	D	?	?
SK	94	63	57	0.9	0.5	0.2	S	S	?	?
SK	95	39	57	0.5	0.5	0.2	S	S	?	?
SK	96	38	60	1.0	0.9	0.4	M	M	?	?
SK	97	57	61	1.1	1.0	0.6	M	D	?	?
SK	98	58	62	0.7	0.5	0.1	S	S	?	?
SK	99	59	40	1.0	0.6	2.1	LL	ED	?	?
SK	100	55	53	1.2	1.0	0.5	M	M	?	?
SK	101	55	53	1.2	1.0	0.5	M	M	?	?
SK	102	49	41	1.2	1.0	0.3	M	M	?	?
SK	103	54	50	1.3	1.2	0.5	M	M	?	?
SK	104	62	70	1.0	0.5	0.8	M	D	?	?
SK	105	63	61	0.9	0.8	0.3	S	M	?	?
SK	106	60	73	1.0	0.5	0.4	M	M	?	?
SK	106	51	63	1.2	0.6	0.6	M	D	?	?
SK	107	47	33	1.0	0.9	0.2	M	S	?	?

## 2. 遺 物

### (1) 縄文草創期（第21～26図、表3、巻頭図版）

白谷岡ノ城北遺跡出土の縄文時代草創期の遺物は、表3のように2箇所の遺物集中地点から22,894点にのぼるが、そのうちの22,782点が剝片（剝片といっても石器の素材として利用可能なものは数点に限られる）、碎片で、こうした偏った遺物の組成は遺跡の性格を端的に表現している。有舌尖頭器は6点出土しており（第21図-6は有舌尖頭器の破損品の可能性が高い）、18点出土している槍先形尖頭器はすべて有舌尖頭器の未製品とも考えられる。槍先形尖頭器は有舌尖頭器に比べ、細かな加工が施されておらず、先端部が尖銳に作り出されていない。また削器と分類したものの中にも有舌尖頭器のプランクとみなす方がよいものがある。さらに遺物の集中地点から2点の叩き石も出土しており、ここで検出された遺物集中地点は、有舌尖頭器製作の跡と見なすことができる。ここでは、有舌尖頭器の素材となる剝片が殆どなく、石核がまったく存在しないことから、別の地点で有舌尖頭器の素材となる剝片を生産し、石器製作の目的にかなった形狀の剝片のみがこの遺跡に持ち込まれ、有舌尖頭器に成形・整形加工されたか、あるいは有舌尖頭器のプランクとしての槍先形尖頭器の製作が行なわれたと考えられる。

石器製作の工程は、剝片の腹面から背面側に比較的急角度の成形加工を施し、片面加工石器（第23図-1、2）を作る。次に腹面側にも平坦剝離の調整加工を施し、半両面加工石器（第22図-1、4、5）、さらに両面加工石器（第21図-8、25-8）とし、舌部を作り出す（第21図-7）。この段階でも断面の形状はまだカマボコ形である。最後に細かな調整加工と先端部の作り出しを行い、有舌尖頭器が完成する。有舌尖頭器の観察からは、初期の成形剝離に規制され、最終的な断面もカマボコ形のものが目立つ。片面加工、半両面加工の槍先形尖頭器の腹面の観察からは、素材の多くは横長剝片であることがわかる。

石材は大半が流紋岩であるが、一部に安山岩、鉄石英、ハリ質安山岩、正硅岩、玉髓が存在する。6点の有舌尖頭器の石材内訳は流紋岩3（第21図-1、2、5）安山岩1（第21図-6）、鉄石英1（第21図-4）、ハリ質安山岩1（第21図-3）で、このうち安山岩、鉄石英、ハリ質安山岩は有舌尖頭器に用いられているだけで、剝片・碎片には1点もない。また、有舌尖頭器の未製品と考えている槍先形尖頭器はすべて流紋岩製で、剝片・碎片の大半が流紋岩であることなどから、白谷岡ノ城北遺跡では、流紋岩の剝片または未製品から有舌尖頭器の製作をおこなっていたことがわかる。流紋岩はいくつかの母岩に識別可能であるが、現段階では時間的な都合で母岩別の分類は行っていない。なお、製品としての石器は出土していないが、玉髓の碎片が数点出土しており、剝片か未製品で遺跡にもちこまれ、製品か未製品として遺跡外へ搬出されたと考えられる。なお、唯一の定形的な削器（第24図-1）は正硅岩を用いているが、正硅岩の碎片も数点出土している。6点の有舌尖頭器の内3点が欠損品（舌部が欠損）であることから、有舌尖頭器の多くは別の地点で製作され、白谷岡ノ城北遺跡に持ち込まれた可能性がある。

有舌尖頭器の形態は、中型で片側がやや内湾する三角形の舌部をもつもの（第21図-2、3）、中

型で返しが器軸に対しほぼ直角のもの(第21図-4、5)、小型で返しが器軸に対しほぼ直角のもの(第21図-1)の3類型がある。いずれも左右対称でなく、片側がやや張り出す傾向がある。有舌尖頭器の製作技術の特徴としては、最終的な調整で斜めに細長い剝離を施しており、特に第21図-3が顕著である。

研磨痕のある結晶片岩の破片が4点出土しているが、磨製の斧形石器の破片であろう。第25図-4は、2面に研磨痕が観察され、体部側面か刀部と考えられる。この他に研磨痕のない同一石材の破片が13点あるが、いずれも斧形石器の破片である。これらの破片は焼土の広がり(炉跡)付近から集中して出土しており、被熱により碎け散った可能性もあるが、すべての破片を集めても、斧形石器の一部にしかならず、むしろ、刀部再生のための調整剝離によるものとみなしたい。

5点の削器の内、定形的な形態は第24図-1の石刃素材の両刃削器のみで、第24図-2~5は剝片の片面に二次加工を施したもので、片面加工の槍先形尖頭器の成形加工に共通する点があり、有舌尖頭器のプランクの初期の段階の可能性もある。第24図-1はある程度時代性を反映する特徴的な形態である。その他に叩き石が2点出土しているが、炉跡の縁辺からの出土で、被熱のため赤化している。出土状態からは、炉石として転用されたと考えられる。

石刃としたもの(第24図-8、第25図-8~10)は、背面の剝離方向がやや不規則なきらいがあるが、基本的には一方向からの連続的な綫長剝片の生産が認められる。さらに、打面再生を介在させた第25図-9、10の接合状態、および連続的に綫長剝片が生産されたとみられる打面再生剝片(第25図-9)や石刃素材の削器の存在などから、白谷岡ノ城北遺跡の剝片生産技術に石刃技法が含まれることが明確である。このほかに、発掘中に細石刃に類似する細長い碎片が数点検出されたので、細石刃核の出土を期待していたが、発見できなかった。現状では、細石刃状の碎片は尖頭器の器面調整の碎片と考える。

土器は約5mm程度の小破片であるが1点ある。表裏の区別が容易で、紋様は認められない。出土状態は石器集中地点の中で、層位も石器群と同一である。

さて、石器群の大まかな位置づけは有舌尖頭器および石刃素材の削器の形態、石刃技法の存在、さらに土器の有無から推定できる。有舌尖頭器は、返しをもたず片側がやや内湾する三角形の舌部をもつものと器軸に対しほぼ直角の返しをもつものがあり、明瞭な返し部をもつものが少ない中林遺跡の有舌尖頭器の一派に後続する段階に置かれる。石刃素材の削器の形態、石刃技法の存在は、中部地方で石刃技法が縄文時代草創期の極早い段階に消滅していることから、縄文時代草創期の前業に位置づけ可能である。土器については残存部は無紋であるが、小破片のため、積極的な位置づけは控えたい。

表3 繩文草創期ユニット出土遺物数量

## 第1 ブロック

(X49~53, Y42~45、中心はX50~52, Y42~44)

有舌尖彫器	6点
槍先形尖頭器	18点
削器	4点
石刀	4点
叩き石	2点
石斧破片	17点
剥片(2cm以上)	1,502点
碎片	21,004点
炭化物	55点

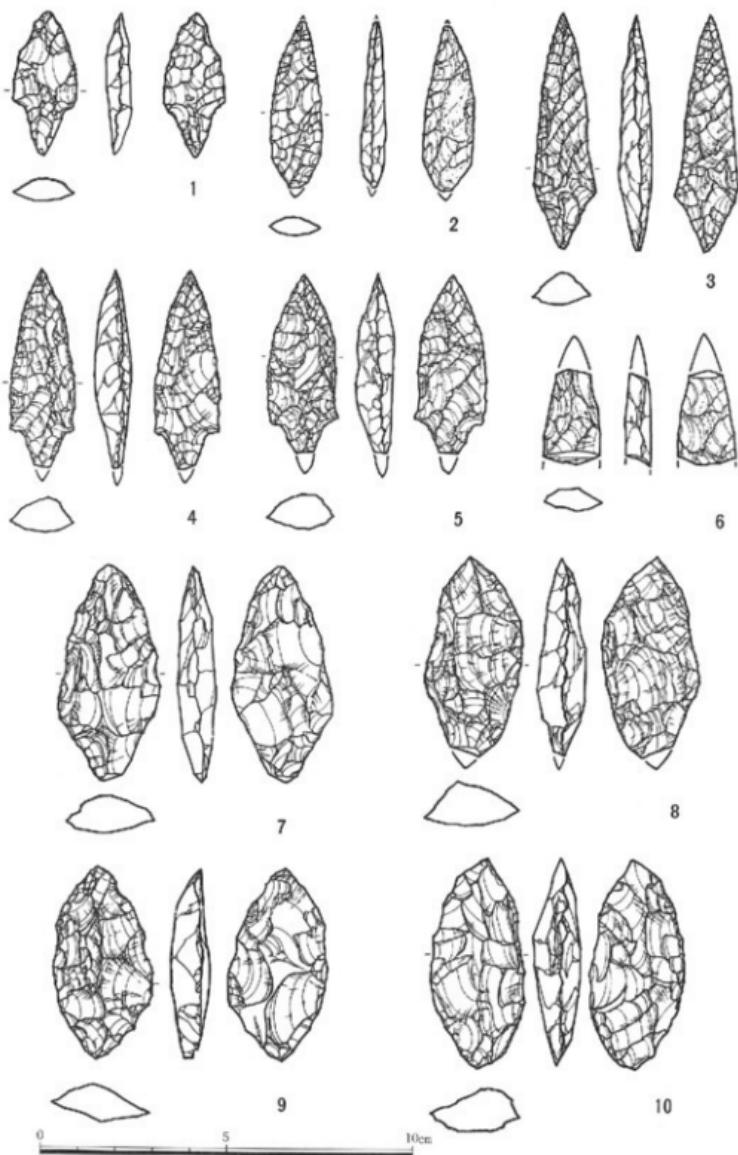
## 第2 ブロック

(X45~47, Y41~44、中心はX46, Y42)

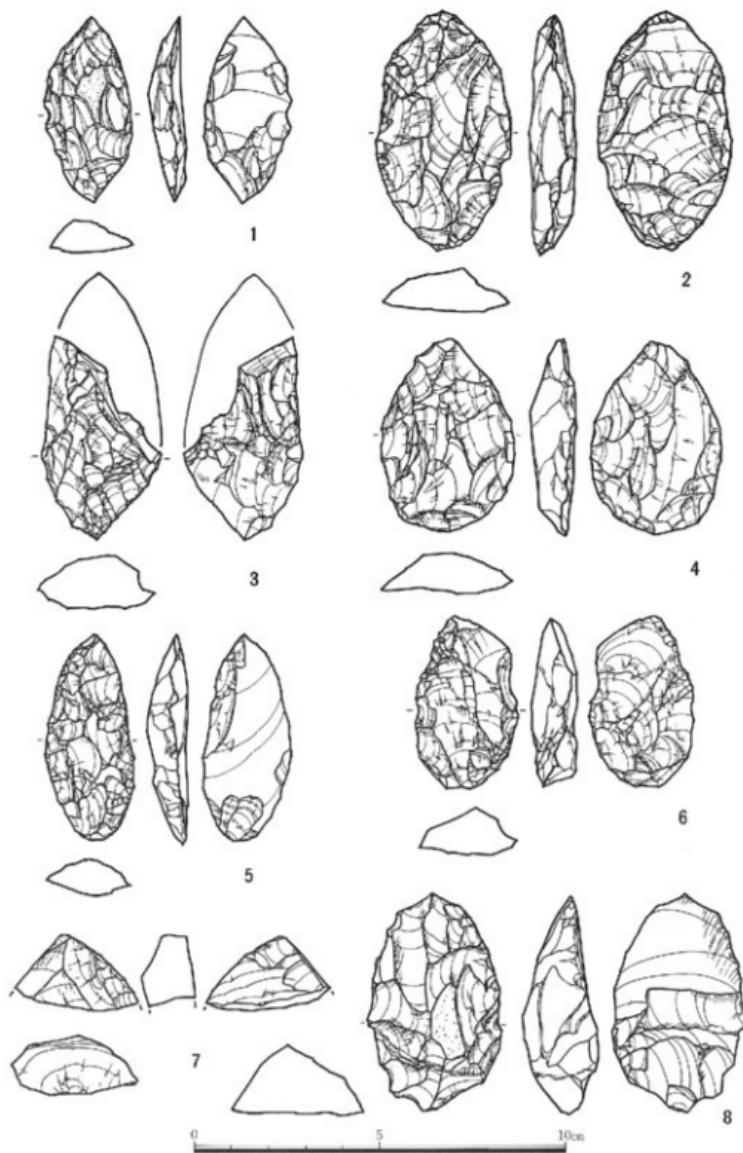
槍先形尖頭器	1点
削器	1点
剥片(2cm以上)	39点
碎片	237点
炭化物	4点

## 繩文草創期ユニット出土の主な石器

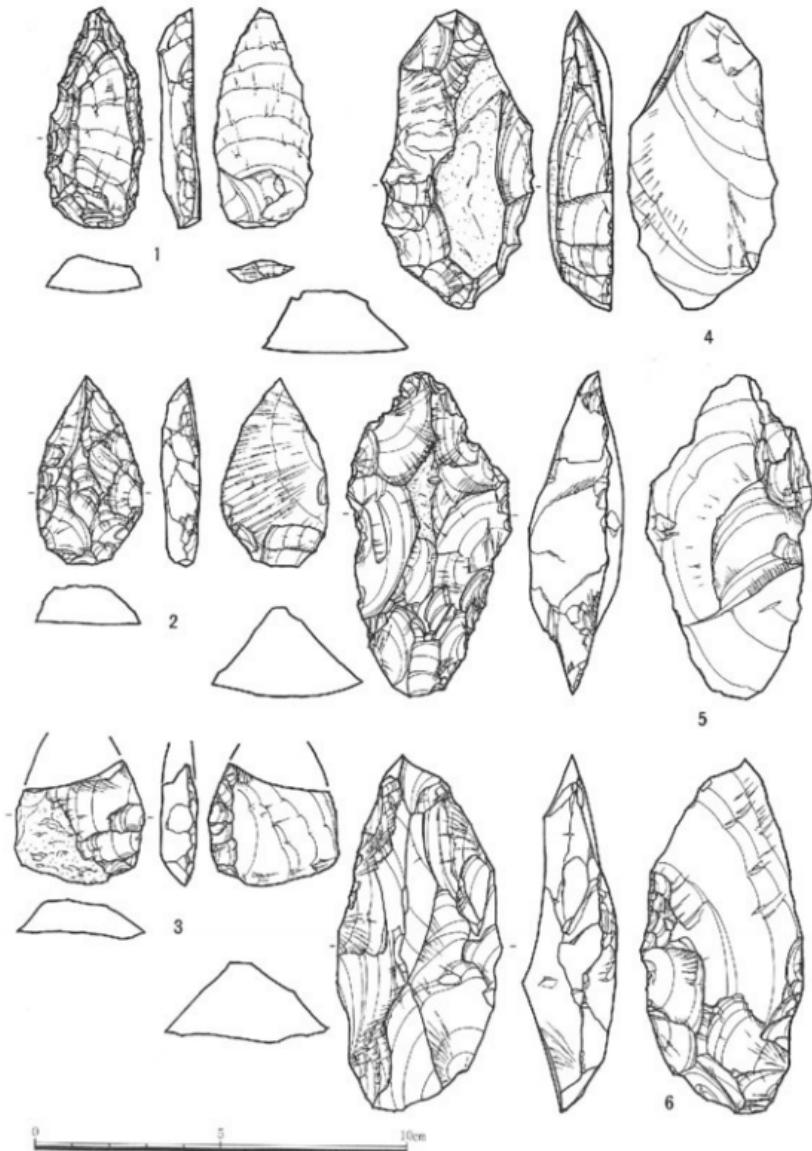
回数	番号	種類	X	Y	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石	村	標高
21-1	220	有舌尖彫器	52	43	38.35	16.65	6.70	2.95	流紋岩		70,084
21-2	1	有舌尖彫器	50	41	44.89	13.70	6.50	1.90	流紋岩		69,966
21-3	66	有舌尖彫器	50	44	63.20	16.95	8.95	7.15	ハリ賀安山岩		69,950
21-4	6	有舌尖彫器	50	44	53.90	17.60	10.00	8.60	武石英		69,925
21-5	54	有舌尖彫器	50	44	47.10	18.80	10.40	9.40	流紋岩		69,925
21-6	2	有舌尖彫器?	50	43	25.50	16.40	7.00	3.45	安山岩		69,963
21-7	17	槍先形尖頭器	52	44	57.95	26.55	10.70	14.40	流紋岩		70,088
21-8	1	槍先形尖頭器	52	42	53.89	25.60	13.00	15.15	流紋岩		70,080
21-9	48	槍先形尖頭器	52	44	51.70	27.85	11.10	12.15	流紋岩		70,101
21-10	3	槍先形尖頭器	52	42	56.65	25.75	12.30	15.65	流紋岩		70,060
22-1	101	槍先形尖頭器	52	44	49.49	23.50	9.00	9.15	流紋岩		70,078
22-2	3	槍先形尖頭器	51	44	64.70	37.00	12.35	26.95	流紋岩		70,029
22-3	212	槍先形尖頭器	52	43	56.90	32.15	16.85	19.20	流紋岩		70,090
22-4	167	槍先形尖頭器	52	44	52.35	36.25	11.05	19.85	流紋岩		70,086
22-5	47	槍先形尖頭器	52	44	56.89	25.05	10.00	11.55	流紋岩		70,101
22-6	8	尖頭器未成品	50	44	45.95	27.95	12.60	14.75	流紋岩		69,938
22-7	15	尖頭器未成品	50	43	29.00	32.90	15.40	7.25	流紋岩		69,970
22-8	2	尖頭器未成品	52	42	59.25	37.00	18.55	34.10	流紋岩		70,085
23-1	7	槍先形尖頭器	50	44	58.60	26.95	9.75	16.70	流紋岩		69,922
23-2	46	槍先形尖頭器	52	44	50.50	28.75	10.40	14.30	流紋岩		70,105
23-3	148	尖頭器未成品	52	44	34.25	34.55	9.05	9.05	流紋岩		70,145
23-4	16	尖頭器未成品	47	42	79.90	41.00	16.90	54.90	流紋岩		69,817
23-5	265	尖頭器未成品	52	44	86.15	43.45	25.00	72.15	流紋岩		70,121
23-6	172	尖頭器未成品	51	43	95.20	44.60	26.15	81.85	流紋岩		70,065
24-1	1	削器	52	43	73.40	23.50	9.00	16.40	オ・ソコーファイ(正解岩)		70,153
24-2	455	削器	52	43	45.25	37.60	17.95	25.05	流紋岩		70,088
24-3	40	削器	52	44	45.70	33.45	11.00	14.85	流紋岩		70,104
24-4	143	削器	52	44	43.35	27.60	9.10	9.10	流紋岩		70,143
24-5	1	削器	47	43	39.25	55.85	13.75	11.70	流紋岩		69,787
24-6	1	使用痕片	51	45	34.00	24.25	6.05	4.10	流紋岩		70,036
24-7	314	使用痕片	52	44	33.90	29.90	11.70	12.65	流紋岩		70,105
24-8	4	石刀	51	45	50.85	22.80	11.10	16.70	流紋岩		69,991
25-1	1	剥片	49	42	60.16	43.95	14.85	27.50	流紋岩		69,874
25-2	1	尖頭器調整剥片	52	43	31.00	22.70	4.80	1.95	流紋岩		中世穴
25-3	2	尖頭器調整剥片	52	43	22.10	19.00	4.70	1.20	流紋岩		中世穴
25-4	31	石斧破片	50	43	27.20	16.30	3.30	1.60	結晶片岩		69,917
25-5	19	石斧破片	50	43	22.10	13.75	6.55	2.05	結晶片岩		69,945
25-6	51	石斧破片	50	43	34.65	16.10	7.20	3.80	結晶片岩		69,909
25-7	17	打痕再生剥片	50	43	27.90	6.25	25.00	50.00	流紋岩		69,973
25-8	207	石刃	51	43	61.35	15.35	7.15	5.40	流紋岩		70,067
25-9	22	石刃	50	44	69.85	25.30	6.30	9.25	流紋岩		69,970
25-10	11	石刃	50	44	78.95	31.55	11.20	16.75	流紋岩		69,955
26-1	386	叩き石	51	43	102.30	60.65	51.35	400.00	石英砂岩		70,090
26-2	387	叩き石	51	43	118.95	76.75	58.05	660.00	石英砂岩		70,095
26-3	桂筆器	54	85	50.00	24.00	8.00	11.10	鐵石英	SD 5		



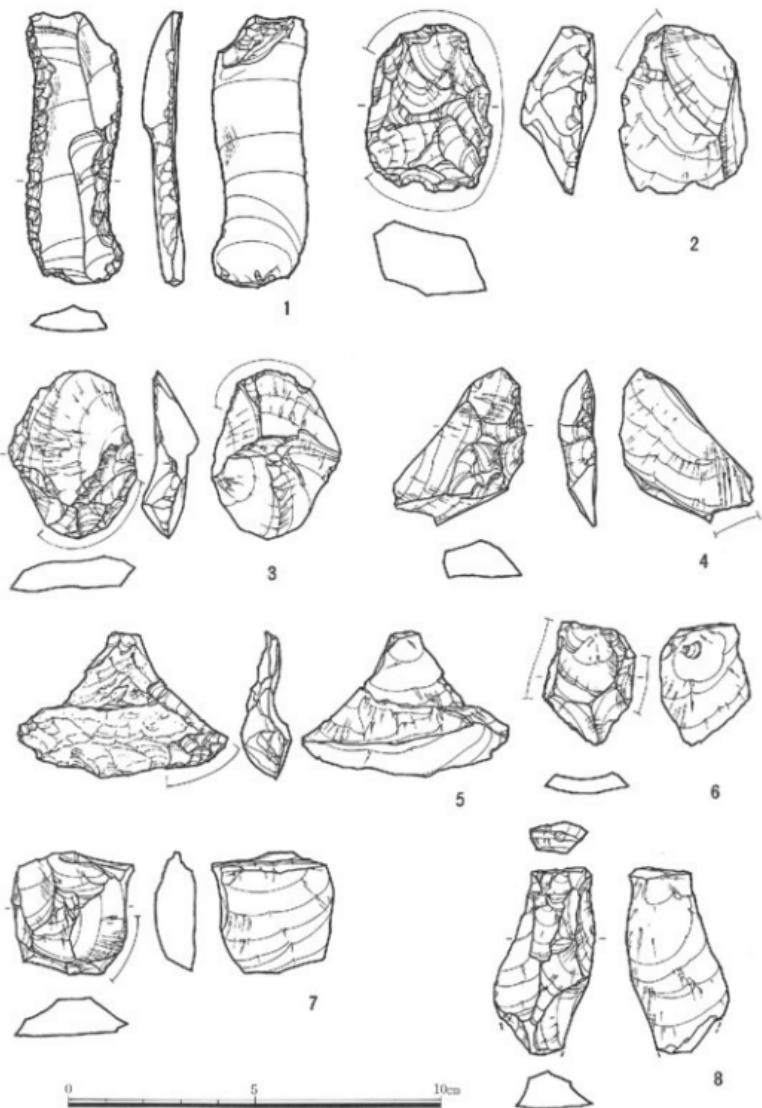
第21図 繩文草創期の石器1(2/3)(1~5:有舌尖頭器, 6~10:槍先形尖頭器)



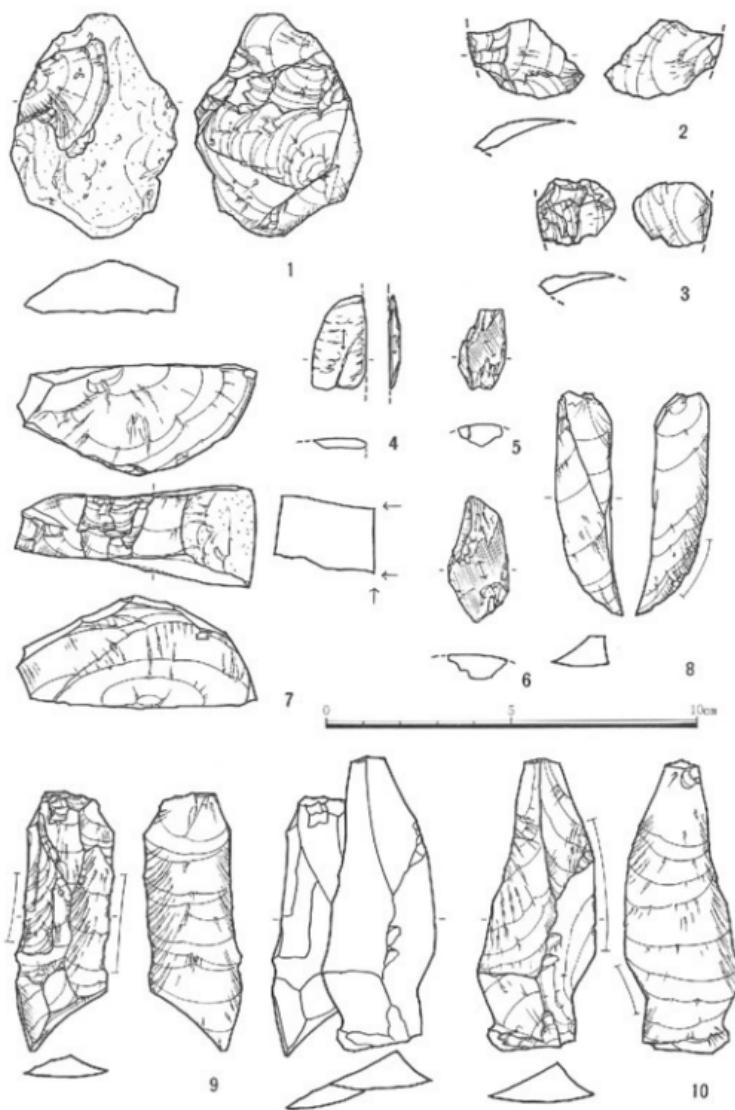
第22図 繩文草創期の石器2(2/3)(1~5:槍先形尖頭器, 6~8:実頭器未成品)



第23図 縄文草創期の石器3(2/3)(1,2:槍先形尖頭器、3~6:尖頭器未成品)



第24図 繩文草創期の石器4(2/3)(1~5:削器, 6,7:使用剥片, 8:石刃)



第25図 繩文草創期の石器5(2/3)(1:剥片, 2.3:尖頭器調整剥片, 7:打面再生剥片, 4~6:石斧, 8.9.10:石刀)とその接合例



第26図 繩文草創期の石器6(2/3)(1.2:叩き石, 3:錐錐器)

## (2) 繩文時代・平安時代・中世

表4-1 遺構内出土遺物一覧

No.1

団版No	造様	各号	記号	種類	器種	部位	胎土	色調	施成	残存	時代	備考
27-1	SBTP	1	よ236	中世土師	皿	口縁部	普通	赤褐色	良	3/4	14.15C	
27-2	SBTP	1	よ304	土師器	環	口縁部	普通	黄褐色	良	1/4	平安末	
27-3	P	1	よ426	中世土師	皿	口縁部	砂粒含む	赤褐色	良	破片	13.14C	
27-4	P	16	よ400	埴輪地	壺	口縁部	砂粒含む	暗青灰	良	破片	中世	
27-5	P	17	よ425	中世土師	皿	口縁部	砂粒含む	暗褐色	良	破片	中世	
27-6	P	17	よ424	中世土師	皿	口縁部	砂粒含む	暗褐色	良	1/4	中世	
27-7	P	19	よ422	中世土師	皿	口縁部	砂粒含む	暗褐色	良	1/4	13.14C	
27-8	P	26	よ421	中世土師	皿	口縁部	密	暗褐色	良	1/4	16C	
27-9	P	27	よ371	埴輪地	甕	口縁部	砂粒含む	暗褐色	良	破片	珠洲IV	顎面塗付器
27-10	P	33	よ423	中世土師	皿	口縁部	密	赤褐色	良	1/4	中世	
27-11	S I	1	よ415	中世土師	皿	口縁部	普通	黄褐色	良	破片	13.14C	
27-12	S I	1	よ416	中世土師	皿	口縁部	普通	赤褐色	良	1/2	13.14C	
27-13	S I	1	よ350	埴輪地	片口鉢	底部	砂粒多い	黑灰	良	破片	珠洲IV	
27-14	S E	1	よ295	中世土師	皿	口縁部	普通	赤褐色	良	完形	13.14C	底部へラ切り模
27-15	S S	1	よ226	十郎器	皿	口縁部	微砂粒含む	暗褐色	良	1/2	平安	内免黑色磨き紅
27-16	S S	1	よ227	十郎器	瓶	口縁部	普通	黄褐色	良	完形	平安	底部赤色磨き板 施張糸切り
27-17	S S	1	よ274	十郎器	瓶	口縁部	普通	褐色	良	3/4	平安	内免黑色磨き板 施張糸切り
27-18	S S	1	よ288	土師器	环	口縁部	微砂粒多	赤褐色	良	1/2	平安	底部糸切り模ナデ
27-19	S S	1	よ307	土師器	皿	底部	普通	褐色	良	1/4	平安	内面黑色磨き台付き皿
27-20	S S	1	よ464	須恵器	底部	普通	白	白	不良	破片	奈良	平安
27-21	S S	1	か94	石器	/	/	/	黄白	/	3/4	縄文中期	黑色斑紋
27-22	S S	1	か42	纒文土器	深鉢	底部	砂粒含む	小柄	真	破片	縄文中期	縄文中期
27-23	S X	1	よ340	埴輪地	片口鉢	口縁部	普通	暗灰	不良	破片	小鉢	瓦質土器?
27-24	S X	1	よ376	埴輪地	甕	底部	小石砂含む	暗灰	良	破片	中世	
27-25	S X	1	よ336	埴輪地	片口鉢	底部	普通	暗灰	良	1/4	珠洲V	
27-26	S X	1	よ253	柴胡削	片口鉢	11縫部	砂粒含む	暗褐色	不良	1/2	珠洲IV	昨日 8.4/2.5cm
27-27	S X	2	よ300	中世土師	皿	口縁部	普通	暗褐色	良	1/4	13.14C	
27-28	S X	2	よ380	崩崩削	甕	口縁部	普通	褐色	良	破片	中世	褐色釉
27-29	S X	2	か54	瀬戸焼	大皿	14縫部	普通	黑褐色	良	1/4	中世	
27-30	S X	2	よ255	埴輪地	片口鉢	口縁部	普通	暗灰	良	破片	珠洲II	
27-31	S X	2	よ322	付焼	瓶	底部	普通	暗褐色	良	1/2	中世	
27-32	S X	2	よ375	埴輪地	底部	砂粒含む	灰	良	破片	中世	オリ鉢に転用(内面摩滅)	
28-33	S D	1	よ369	埴輪地	甕	口縁部	砂粒含む	灰	良	破片	珠洲II	昭和17年 7本/3cm
28-34	S D	1	よ289	埴輪地	甕	口縁部	小石含む	暗褐色	良	破片	珠洲IV	昭和19年 9.8/3cm
28-35	S D	1	よ370	埴輪地	甕	口縁部	普通	暗灰	良	破片	珠洲IV	昭和20年 8.4/3cm
28-36	S D	1	よ372	埴輪地	甕	口縁部	普通	暗褐色	良	破片	大山田	昭和20年 10.5/3cm
28-37	S D	1	よ274	埴輪地	甕	底部	普通	灰	良	1/4	中世	意船静止糸切り模
28-38	S D	1	よ377	埴輪地	底部	砂粒含む	暗灰	やや良	破片	中世	昭和20年 12本/5cm	
28-39	S D	1	よ275	埴輪地	甕	底部	微砂粒多	暗褐色	やや良	破片	中世	
28-40	S D	1	よ378	埴輪地	甕	砂粒含む	暗灰	不良	破片	中世	SKM6.接合	
28-41	S D	1	よ344	埴輪地	片口鉢	口縁部	砂粒含む	暗灰	やや良	破片	中世	
28-42	S D	1	よ341	埴輪地	片口鉢	10縫部	砂粒含む	暗灰	良	破片	中世	
28-43	S D	1	よ343	埴輪地	片口鉢	口縁部	砂粒含む	暗灰	良	破片	中世	昭和20年 10本/2.5cm
28-44	S D	1	よ329	埴輪地	皿	口縁部	鐵錆	灰	良	1/4	中世	底物(暗緑色)
28-45	S D	1	よ405	土師器	皿	口縁部	普通	赤褐色	やや良	1/2	平安	底部糸切り直
28-46	S D	1	よ276	土師器	瓶	底部	普通	褐色	良	1/4	平安	内面黑色磨き台付
28-47	S D	1	よ403	土師器	甕	口縁部	普通	赤褐色	良	破片	平安	底部糸切り直
28-48	S D	1	よ404	土師器	甕	口縁部	普通	赤褐色	良	破片	平安	内面磨き直
28-49	S D	1	よ409	土師器	甕	口縁部	普通	褐褐色	良	破片	平安	
28-50	S D	1	よ277	須恵器	瓶	底部	普通	暗青灰	良	1/4	奈良平安	
28-51	S D	1	か83	打製石斧	/	/	/	胡麻感	/	完形	縄文中期	花こう岩
28-52	S D	1	か91	打製石斧	/	/	/	胡麻感	/	3/4	縄文中期	砂岩
28-53	S D	1	か16	縄文土器	深鉢	口縁部	砂粒含む	赤褐色	良	破片	縄文中期	新鶴
28-54	S D	2	よ492	中世土師	皿	口縁部	普通	赤褐色	良	1/4	中世	
28-55	S D	2	よ301	中世土師	皿	口縁部	普通	赤褐色	良	1/4	13.14C	底部へラ切り直 紅花表有り
28-56	S D	2	よ302	中世土師	皿	口縁部	普通	赤褐色	良	1/2	13.14C	底部へラ切り直
28-57	S D	2	よ267	埴輪地	片口鉢	口縁部	普通	暗灰	やや良	破片	珠洲II	
28-58	S D	2	よ406	土師器	皿	砂粒含む	赤褐色	良	破片	平安		
28-59	S D	2	よ407	土師器	环	口縁部	普通	黄褐色	良	破片	平安	
28-60	S D	3	よ405	中世土師	皿	口縁部	普通	赤褐色	やや良	破片	中世	
28-61	S D	4	よ312	中世土師	羽釜	口縁部	普通	暗褐色	良	破片	中世	
28-62	S D	4	よ258	埴輪地	片口鉢	口縁部	砂粒含む	黑灰	良	破片	片口部	

国医No.	薬名	番号	記号	種類	器種	部位	船土	色調	地質	残存	時代	備考
28-63 S.D	珠洲燒	4	よ254	珠洲燒	片口鉢	口縫部	普通	暗灰	やや良	破片	珠洲II	
28-64 S.D	珠洲燒	4	よ373	珠洲燒	壺	底部	普通	暗灰	良	破片	中葉	施錠靜止系切り瓶
28-65 S.D	珠洲燒	4	よ414	上師器	壺	底部	普通	暗灰	やや良	破片	平安	柱状高台底部系切り瓶
28-66 S.D	珠洲燒	4	よ410	上師器	环	口縫部	砂粒含む	小柄	やや良	破片	平安	底部系切り瓶
28-67 S.D	珠洲燒	4	よ401	上師器	环	口縫部	普通	柄	良	1/4	平安	
29-68 S.D	珠洲燒	5	よ273	珠洲燒	壺	口縫部	砂粒含む	底	良	1/4	珠洲III	昭和5年 8本/3cm
29-69 S.D	珠洲燒	5	よ413	十肩壺	壺	口縫部	普通	黄褐	良	破片	小葉	
29-70 S.D	珠洲燒	5	よ260	成潤燒	片口鉢	口縫部	普通	灰	良	破片	中葉	
29-71 S.D	珠洲燒	5	よ353	珠洲燒	片口鉢	口縫部	小口含む	暗灰	良	破片	中葉	
29-72 S.D	珠洲燒	5	よ349	珠洲燒	片口鉢	底部	普通	灰	良	破片	中葉	
29-73 S.D	珠洲燒	5	よ579	須澤燒	片口鉢	口縫部	普通	暗灰	良	破片	平安?	
29-74 S.D	珠洲燒	5	よ385	珠洲燒	壺	底部	小口含む	暗青灰	良	破片	中葉	施錠靜止系切り瓶
29-75 S.D	石瓢瓶?	5	か98	石瓢瓶?	/	/	/	黑	/	破片	板片	粗製岩
29-76 S.D	打製石斧	5	か84	打製石斧	/	/	/	灰	/	完形	鶴文中期	斜切坂杖あり
29-77 S.D	土師壺	8	よ412	土師壺	壺	口縫部	普通	黄褐	良	破片	中葉	底部へ2切口瓶
29-78 S.D	珠洲燒	10	よ339	珠洲燒	片口鉢	口縫部	普通	暗灰	良	破片	中葉	昭和4年 9本/2.1cm
29-79 S.K	黑戸燒	1	よ325	黑戸燒	壺	底部	普通	灰	良	破片	中葉	卵
29-80 S.K	黑戸燒	1	よ278	黑戸燒	壺	底部	普通	赤褐	良	破片	平安	内面墨色刷き痕
29-81 S.K	黑戸燒	1	よ427	土師器	壺	底部	普通	黄褐	良	1/4	平安	武昌系切り瓶 内面墨色刷き
29-82 S.K	青磁	2	よ319	青磁	壺	底部	普通	青磁精	良	1/4	小葉	
29-83 S.K	青磁	3	よ338	珠洲燒	片口鉢	底部	普通	灰	良	1/4	中葉	昭和12本/3cm底部静止系切り
29-84 S.K	青磁	4	よ292	中世土師	壺	口縫部	普通	黄褐	良	完形	中葉	内面系切り瓶(ハケ?)
29-85 S.K	青磁	5	よ295	中世土師	壺	口縫部	普通	黄褐	良	1/2	中葉	内面有り
29-86 S.K	青磁	5	よ438	珠洲燒	盤	体部	砂粒含む	墨	良	破片	中葉	昭和5年 11本/3.0cm
29-87 S.K	青磁	5	よ437	珠洲燒	壺	底部	普通	赤褐	良	破片	中葉	
29-88 S.K	青磁	8	よ235	中世土師	壺	口縫部	砂粒含む	暗青灰	良	完形	13.14C	底部系切り瓶
29-89 S.K	青磁	8	よ291	中世土師	壺	口縫部	普通	赤褐	良	完形	13.14C	
29-90 S.K	青磁	8	よ290	中世土師	壺	口縫部	普通	小柄	良	完形	13.14C	
30-91 S.K	青磁	12	よ436	珠洲燒	壺	底部	普通	暗青灰	良	破片	中葉	
30-92 S.K	青磁	12	よ252	珠洲燒	片口鉢	口縫部	普通	灰	良	1/4	珠洲IV	昭和4年 14本/3.2cm
30-93 S.K	青磁	12	よ413	中世土師	壺	底部	普通	黄褐	良	破片	13.14C	底部へ2切口瓶
30-94 S.K	青磁	12	か97	石瓢瓶	/	/	/	黑	/	破片	粗製岩	
30-95 S.K	青磁	19	よ419	中世土師	壺	口縫部	砂粒含む	黄褐	良	1/4	中葉	
30-96 S.K	青磁	19	よ345	珠洲燒	片口鉢	口縫部	砂粒含む	黑灰	良	破片	珠洲IV	昭和17本/2.2cm 片口部
30-97 S.K	青磁	21	よ347	珠洲燒	片口鉢	体部	普通	暗灰	良	破片	珠洲V	昭和17本
30-98 S.K	青磁	23	よ298	中世土師	壺	口縫部	普通	始褐	良	1/4	中葉	灯芯模あり
30-99 S.K	青磁	25	よ276	珠洲燒	壺	底部	微細粒含む	灰	良	破片	中葉	上7.7cm
30-100 S.K	青磁	25	よ275	繪文土器	深杯	口縫部	砂粒含む	黄白	良	破片	鶴文中期	山田
30-101 S.K	青磁	31	よ430	中世土師	壺	口縫部	普通	白	良	1/4	中葉	
30-102 S.K	青磁	34	よ428	中世土師	壺	口縫部	普通	黄褐	良	1/4	12C?	
30-103 S.K	青磁	36	よ320	青磁	壺	底部	普通	青磁精	良	1/4	中葉	
30-104 S.K	青磁	36	よ297	中世土師	壺	口縫部	普通	白	良	3/4	16C	灯芯模
30-105 S.K	青磁	36	か99	打製石斧	/	/	/	黑	/	完形	鶴文中期	砂岩
30-106 S.K	青磁	41	よ431	中世土師	壺	口縫部	普通	白	不良	破片	中葉	
30-107 S.K	青磁	41	よ417	中世土師	壺	口縫部	砂粒含む	褐	不良	1/2	13.14C	
30-108 S.K	青磁	42	よ416	珠洲燒	片口鉢	体部	砂粒含む	灰	良	破片	珠洲V	昭和粗い
30-109 S.K	青磁	42	よ348	珠洲燒	片口鉢	体部	普通	灰	良	破片	珠洲V	昭和粗い
30-110 S.K	青磁	43	よ296	中世土師	壺	口縫部	普通	始褐	良	1/4	中葉	灯芯模あり
30-111 S.K	青磁	45	よ259	珠洲燒	片口鉢	口縫部	砂粒多い	灰	不良	破片	中葉	瓦質土器?
30-112 S.K	青磁	52	よ337	珠洲燒	片口鉢	口縫部	普通	灰	良	1/4	珠洲V	昭和8本/3cm(幅?)/押模模
30-114 S.K	青磁	55	よ435	白磁	瓶	口縫部	普通	白	良	破片	中葉	
30-115 S.K	青磁	67	か99	石瓢瓶	/	/	/	黑	/	1/2	中葉	一次焼成うける
31-116 S.K	青磁	68	よ439	珠洲燒	壺	体部	砂粒含む	暗青灰	良	破片	中葉	灯芯模
31-117 S.K	青磁	69	よ420	上師器	环	口縫部	普通	柄	良	破片	平安	
31-118 S.K	青磁	70	よ432	中世土師	壺	口縫部	砂粒含む	小柄	良	破片	16C初	灯芯模あり
31-119 S.K	青磁	72	よ374	珠洲燒	壺	底部	砂粒含む	暗灰	良	破片	中葉	昭和4年 9本/3cm 瓷部静止
31-120 S.K	青磁	73	よ346	珠洲燒	片口鉢	体部	砂粒含む	暗灰	良	破片	中葉	昭和 8本/2.4cm
31-121 S.K	青磁	74	か43	繪文土器	深杯	体部	砂粒含む	小柄	良	破片	鶴文早期	無款
31-122 S.K	青磁	74	か44	繪文土器	深杯	体部	砂粒含む	赤褐	良	破片	鶴文早期	無款
31-123 S.K	青磁	76	よ367	珠洲燒	壺	口縫部	普通	暗灰	良	破片	珠洲III	昭和7本/3cm SK78後合
31-124 S.K	青磁	79	よ418	中世土師	壺	口縫部	砂粒含む	底	良	1/2	13.14C	灯芯模あり
31-125 S.K	青磁	79	か76	鏡	/	/	/	/	/	完形	中葉	鶴文松文樓
31-126 S.K	青磁	80	よ342	珠洲燒	片口鉢	口縫部	砂粒含む	暗灰	良	破片	中葉	
31-127 S.K	青磁	82	よ266	珠洲燒	片口鉢	底部	普通	灰	良	破片	中葉	底部静止系切り瓶
31-128 S.K	青磁	89	よ271	珠洲燒	壺	口縫部	普通	暗灰	良	破片	珠洲V	昭和5年 11本/3.0cm

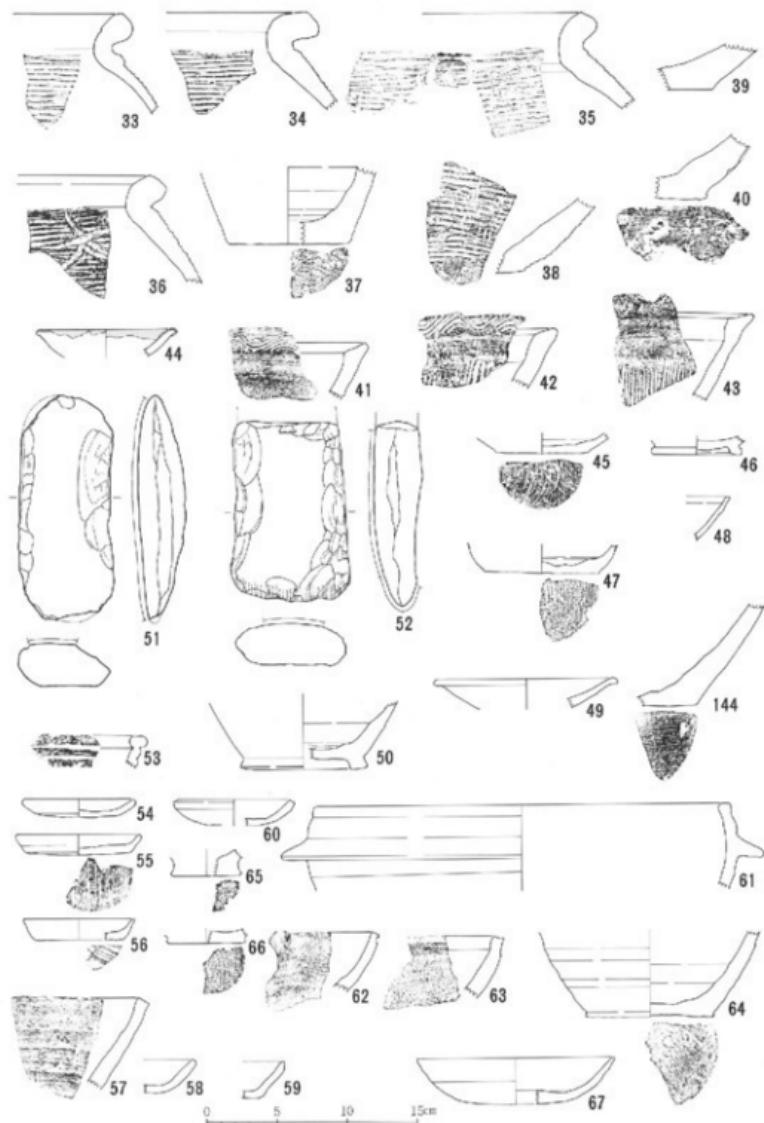
国別名	遺構	番号	部号	種類	跡種	部位	胎土	色調	焼成	残存	時代	備考
31-129	S.K.	91	上352	越中高丘	片口体	体部	普通	黒褐色	燒成	破片	近世	
31-130	S.K.	95	上279	珠陶燒	裏	口縫部	普通	灰	良	破片	珠洲期	に369と同一個体か
31-131	S.K.	97	上429	十郎爺	皿	口縫部	密	赤褐色	魚	1/4	12C?	底部糸切り前 灯芯破あり
31-132	S.K.	98	上433	中井上師	皿	口縫部	普通	茶褐色	良	1/4	中世	
31-133	S.K.	101	か89	磨製石斧	/	/	青銅	/	1/2	調文中期	蛇紋岩	
31-134	S.K.	102	に434	吉彌	皿	口縫部	普通	透青釉	魚	破片	中世	
31-135	S.K.	102	よ257	珠陶燒	片口体	口縫部	普通	暗灰	良	破片	珠洲V	片口部
31-136	S.K.	102	か92	打製石斧	/	/	灰	/	3/4	調文中期	綠色斑紋あり 二次焼成痕	
31-137	S.K.	105	に398	珠陶燒	皿	口縫部	普通	灰	良	破片	中世	
31-138	A.P.	1	に306	十郎爺	皿	口縫部	普通	黄褐色	やや良	1/2	平安末	2段子テ
31-139	S.D.	12	上268	珠洲燒	片口鉢	底部	小石含む	黒褐色	良	1/4	飛鳥IV	鉢口 7本・1.5cm 底部糸切
32-140	S.K.	6	か14	鶴文土器	深鉢	口縫部	普通	赤褐色	良	破片	調文中期	新崎
32-141	S.K.	6	か12	鶴文土器	深鉢	口縫部	普通	赤褐色	良	破片	調文中期	新崎
32-142	S.K.	6	か78	鶴文土器	深鉢	口縫部	普通	赤褐色	良	残存	調文中期	
32-143	S.K.	6	か80	鶴文土器	深鉢	口縫部	普通	暗青釉	魚	3/4	調文中期	粗鉄 補助鋸文 L.R.

表4-2 包含層出土の主な遺物

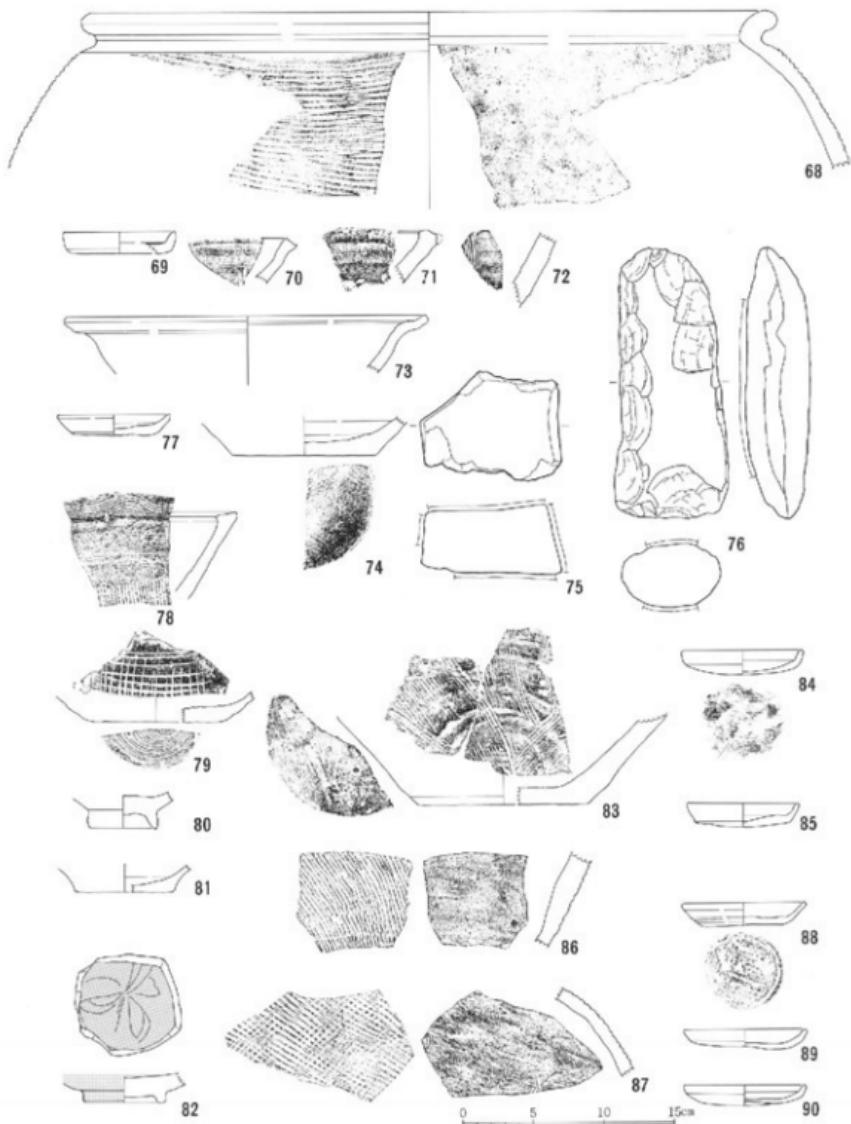
国別名	X	Y	層位	番号	種類	器種	部位	胎土	色調	焼成	残存	時代	備考
33-1	55	8	周2.3	か45	鶴文土器	深鉢	口縫部	黒粘含む	黒褐色	良	破片	調文早期前半	山形押型紋
33-2	55	8	周2.3	か47	鶴文土器	深鉢	体部	黒粘含む	黒褐色	良	破片	調文早期前半	山形押型紋
33-3	55	8	周2.3	か50	鶴文土器	深鉢	体部	黒粘含む	黒褐色	良	破片	調文早期前半	山形押型紋
33-4	55	8	周2.3	か51	鶴文土器	深鉢	体部	黒粘含む	黒褐色	良	破片	調文早期前半	山形押型紋
33-5	55	8	周2.3	か48	鶴文土器	深鉢	体部	黒粘含む	黒褐色	良	破片	調文早期の字	山形押型紋
33-6	55	8	周2.3	か49	鶴文土器	深鉢	体部	黒粘含む	黒褐色	良	破片	調文早期前半	山形押型紋
33-7	36	25	周1	か55	鶴文土器	深鉢	体部	黒粘含む	黒褐色	良	破片	調文早期	鶴文押型
33-8	70	65	周2	か56	鶴文土器	深鉢	体部	黒粘含む	黒褐色	良	破片	調文早期	より糸切
33-9	70	65	周2	か57	鶴文土器	深鉢	体部	黒粘含む	黒褐色	良	破片	調文早期	より糸切
33-10	65	8	周1	か15	鶴文土器	深鉢	口縫部	黒	赤褐色	良	破片	調文中期	羽状繩文
33-11	50	92	周1.3	か81	鶴文土器	深鉢	底部	砂利含む	黄褐色	良	破片	調文中期初頭	木目状ヨリ糸切
33-12	45	115	周1	か17	鶴文土器	深鉢	口縫部	普通	赤褐色	良	破片	調文中期前半	新崎
33-13	66	120	周1	か18	鶴文土器	深鉢	口縫部	砂利含む	黃白	やや良	破片	調文中期	新崎
33-14	45	118	周1	か20	鶴文土器	深鉢	口縫部	砂利含む	黃白	やや良	破片	調文中期	新崎
33-15	55	106	周1	か29	鶴文土器	深鉢	口縫部	砂利含む	赤褐色	良	破片	調文中期	新崎
33-16	62	122	周2	か8	鶴文土器	深鉢	口縫部	砂利含む	赤褐色	良	破片	調文中期	新崎
33-17	64	123	周1	か32	鶴文土器	深鉢	口縫部	砂利含む	赤褐色	良	破片	調文中期	新崎
33-18	58	119	周1	か19	鶴文土器	深鉢	口縫部	砂利含む	黄褐色	良	破片	調文中期	新崎
33-19	62	123	周2	か6	鶴文土器	深鉢	口縫部	砂利含む	黄褐色	良	破片	調文中期前半	新崎
33-20	50	92	周1	か77	鶴文土器	深鉢	口縫部	砂利含む	黄褐色	良	破片	調文中期	新崎
33-21	62	123	周2	か4	鶴文土器	深鉢	口縫部	砂利含む	黄褐色	良	破片	調文中期	新崎
33-22	25	120	周1	か79	鶴文土器	耳鉢	/	普通	赤褐色	良	完存	調文中期	
33-112	69	3	周2	に311	十郎爺	耳鉢	口縫部	普通	赤褐色	良	3/4	平安	底部糸切り側
33-116	55	65	表2	に24	中世土師	皿	口縫部	普通	赤褐色	良	1/2	14, 15C	
33-117	60	19	表3	に231	中世土師	皿	口縫部	普通	赤褐色	やや良	1/2	15C ?	
33-118	60	19	表3	に235	中世土師	皿	口縫部	普通	赤褐色	良	1/2	中世	
33-119	73	118	周2	に303	中世土師	皿	口縫部	普通	赤褐色	良	1/2	12, 13C ?	
33-120	65	125	周1	に266	中世土師	皿	口縫部	普通	赤褐色	良	1/4	中世	
33-121	52	90	表2	に237	中世土師	皿	口縫部	砂粒含む	明褐色	良	光沢	14, 15C	
33-122	50	40	表2	に252	中世土師	皿	口縫部	普通	褐色	良	1/4	13, 14C	
33-123	55	55	表2	に279	中世土師	皿	口縫部	普通	赤褐色	良	1/2	15C 未	
33-124	52	33	表2	に289	中世土師	皿	口縫部	砂粒含む	赤褐色	良	1/2	15C	打芯施
33-125	55	70	表2	に294	中世土師	皿	口縫部	砂粒含む	褐色	良	1/2	15C	打芯施
33-126	52	52	表2	に293	中世土師	皿	口縫部	普通	赤褐色	良	1/2	15C	打芯施
33-127	65	15	表2	に281	中世土師	皿	口縫部	砂粒含む	褐色	良	1/4	中世	
33-128	65	72	表2	に282	中世土師	皿	口縫部	普通	褐色	良	1/4	13C ?	
33-129	55	59	表2	に285	中世土師	皿	口縫部	普通	褐色	良	1/4	16C初	
33-130	70	100	表2	に442	珠陶燒	盤	口縫部	粗	黃白	不良	破片	珠洲II	
33-131	47	32	表2	に368	珠陶燒	盤	口縫部	普通	暗灰	良	破片	珠洲V	明治9年/3m
33-132	35	88	表2	に440	珠陶燒	盤	口縫部	普通	灰	良	破片	珠洲III, IV	明治9年7月/3cm
33-133	60	5	表2	に336	珠陶燒	皿	口縫部	普通	暗褐色	良	1/2	近世	褐色施
33-184	B地区	黑1	か72	七郎爺	ロコモ	体部	普通	黄褐色	良	破片	平安		
33-185	#	黑1	か62	珠陶燒	裏	体部	普通	暗灰	良	破片	中世		
33-186	#	黑1	か64	珠陶燒	口縫	口縫部	砂粒含む	珠褐色	良	破片	珠洲4		
33-187	#	黑1	か63	珠陶燒	口縫	体部	褐色	褐色	良	破片	珠洲2		
33-188	#	黑1	か52	珠陶燒	明目	口縫部	素	褐色	不良	破片	中世末		



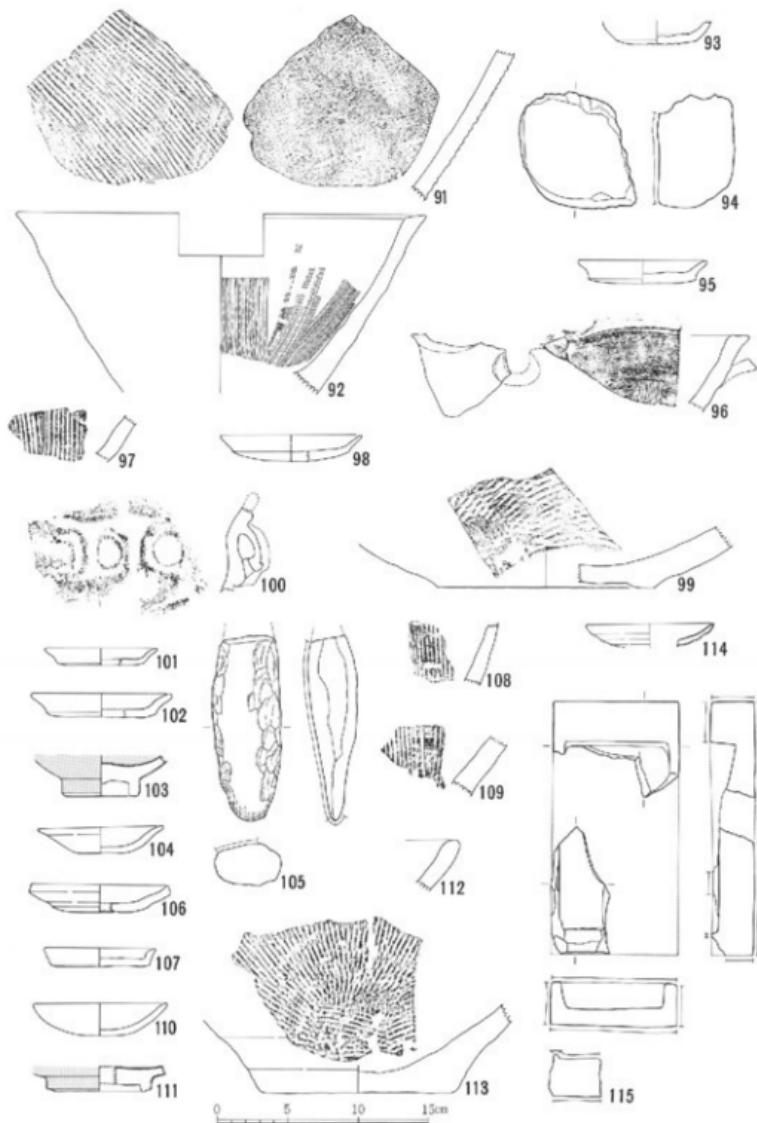
第27図 遺構内出土遺物 1(1/4) (1.2:SB7-P1, 3:P1, 4:P16, 5.6:P17, 7:P19, 8:P26, 9:P27, 10:P33, 11~13:SI1, 14:SE1, 15~22:SS1, 23~26:SX1, 27~32:SX2)



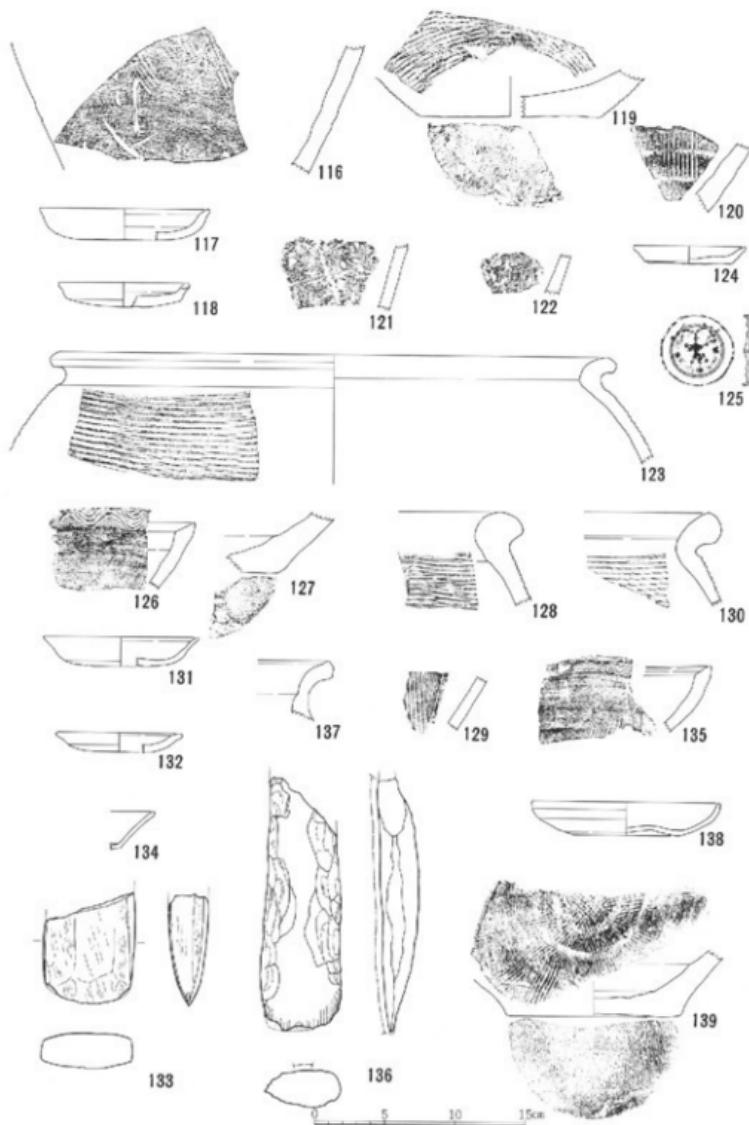
第28図 遺構内出土遺物2(1/4) (33~53:SD1, 54~59:SD2, 60~67:SD4)



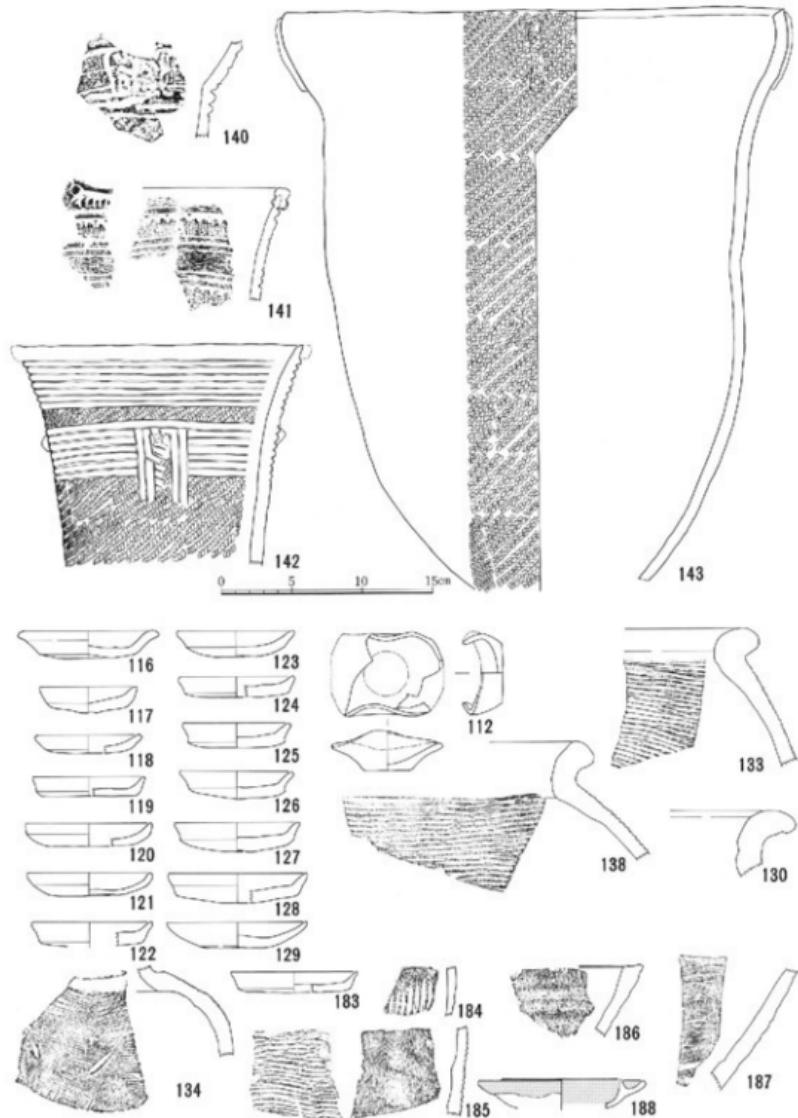
第29図 遺構内出土遺物3(1/4) (68~76:SD5, 77:SD8, 78:SD10, 79~81:SK1, 82:SK2, 83:SK3, 84:SK4, 85~87:SK5, 88~90:SK8)



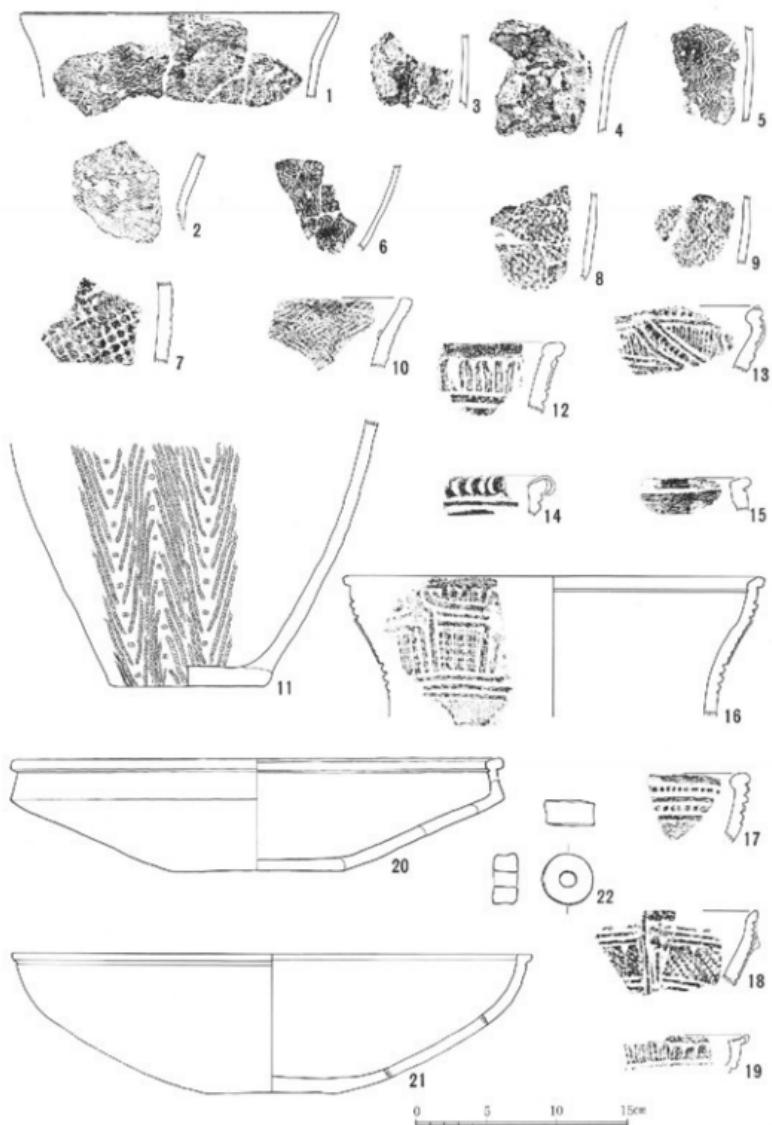
第30図 通構内出土遺物4(4)(91~94:SK12, 95, 96:SK19, 97:SK21, 98:SK23, 99, 100:SK25, 101:SK31, 102:SK34, 103~105:SK36, 106, 107:SK41, 108, 109:SK42, 110:SK43, 111:SK44, 112:SK45, 113:SK52, 114:SK55, 115:SK67)



第31図 造構内出土遺物5(1/4) (116:SK68, 117:SK69, 118:SK70, 119:SK72, 120:SK73, 121,122:SK74, 123:SK76, 124,125:SK79, 126:SK80, 127:SK82, 128:SK89, 129:SK91, 130:SK95, 131:SK97, 132:SK98, 133:SK101, 134~136:SK102, 137:SK105, 138:API, 139:SD12)



第32図 遺構内出土遺物6(1/4)(140~143:SK6) 包含層出土遺物(112:土師器耳皿, 116~129:中世土師皿, 130, 133, 134, 138:株洲焼甕, 183~188:B地区谷出土遺物)



第33圖 包含層出土遺物(1/4)(1~22: 楚文土器)

写 真 図 版



作業風景・調査区南半(北から)



土塙群(南から)

図版2

縄文草創期ユニット



縄文草創期ユニット(東から)



縄文草創期ユニット(北東から)

図版3 繩文早期押型紋土器出土状況



押型紋土器出土状況近景(南から)



押型紋土器出土状況遠景(東から)

図版4  
建物(中世)1



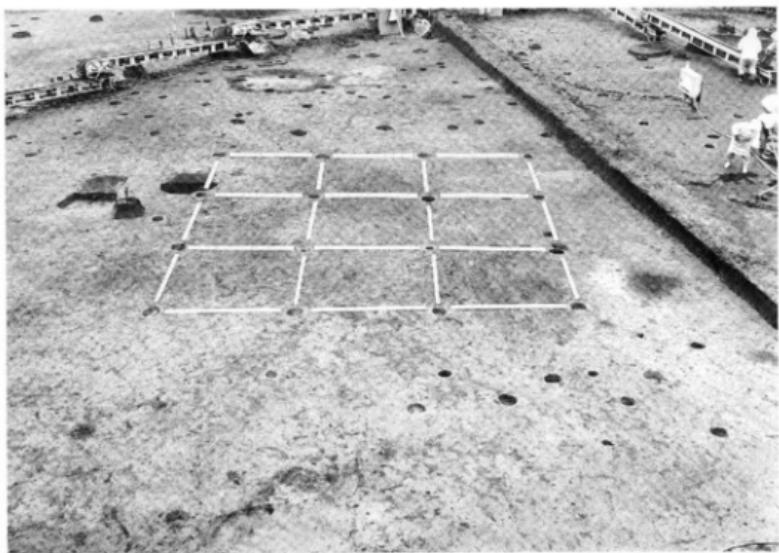
SB-3, 4, 6, 7, 8(西から)



SB-2~8(南から)



SI-1~3, SB-12, P-7(東から)



SB-1(南から)

図版 6

土塙(縄文・中世) 1



SK-6・縄文中期倒木痕(南から)



SK-5・中世(西から)



SK-8・中世(南から)



SK-82, 83, 85・中世(西から)

図版8

土塙3・B地区溝



SK-100・中世(南から)



B地区溝(南から)

図版 9  
集石遺構(平安)



SS-2(南から)



SS-1(南から)



A地区 SB-9, SD-12(南から)



A地区 遠景(北から)

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第34冊

富山県小矢部市  
白谷岡ノ城北遺跡発掘調査概要

発行日 1992年3月25日  
編集・発行 小矢部市教育委員会  
(〒932 富山県小矢部市本町1番1号)  
TEL 0766-67-1760  
印 刷 株式会社 アヤト

